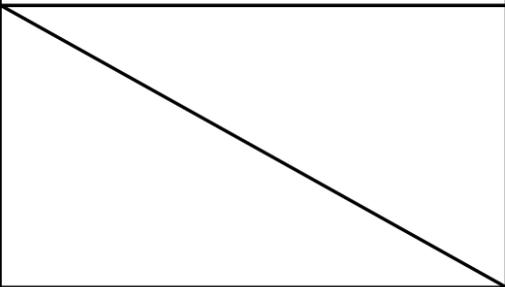


## 第2回熊本市生涯学習推進計画策定委員会 意見一覧

議事2				
番号	発言者	委員の発言内容	市の発言内容	素案への反映
1	田川委員	8ページの生涯学習のイメージ図について、地域に還元するためには、ボランティア活動、スポーツ活動、自治会の活動も生涯学習だと思うため、「社会教育による学習」の中に「市民として必要な組織的な教育活動」を入れて欲しい。		ご意見のとおり追加。
2	萱野委員	4ページの検証指標アについて、令和元年度から質問を変更したとあるが、変更前は市主催の講座を聞いたのか、それとも民間等の講座を聞いたのか。また、変更後は複数回答とあり、どのような場所や形態で学習をしたことがあるかを聞いたことによって、具体的にいろいろな場所や形という答えが出て、それを積み上げることによって変更前よりも数字が増えたという意味でもあるのか。	変更前と変更後どちらも、市主催の講座を問うものではなく、自分の学習を行えたかという問いである。 変更前は、「生涯学習をしたことがありますか」と聞いていたため、生涯学習という言葉があまり認識されておらず、学習はしているが自分がやっているのは生涯学習ではないと思われ、割合が低かったのではないかと認識している。 一方、変更後は「どのような場所や形態で学習したことがありますか」という問いで、選択肢にインターネット、図書館・博物館・美術館、公民館等での講座や教室等があり、その中のいずれかを選んだ人の割合となっている。つまり、いずれの学習もやっていないと回答した人を差し引いた値が、生涯学習をした人の割合ということになる。  このような背景を知らない方がこの部分を読んでも分からないと思うため、表現の仕方は検討する。	・「実施主体を問わず1年間で学習をした市民の割合であり、市主催の講座を受講した割合とは異なります。」については、分かりづらいため削除。  ・検証指標アの実績値が基準値から大きく増加した原因を追加。
3	萱野委員	前計画がスタートした令和2年度以降の数値だけを比較すれば、分かりにくい部分が割愛されるのではないかと思う。		前計画の基準値（H27）は、前計画の検証を行ううえで必要と考えている。
4	八幡委員	1年くらいの中に生涯学習をしたことがある者の割合というのは、熊本市に限らず、別紙3 教育振興基本計画（概要版）の3ページにも成果の指標として書いてある。 何も知らずに生涯学習をしたことがあるかを聞かれ、やっていないと答える人がいたとしても、「週末にスポーツを楽しんだ」や「ピアノの発表会に行った」など、具体的な活動を聞くことで、生涯学習の概念の中にどのようなものが含まれるかが具体化され、数値が上がるのではないかと思う。その方が、この委員会が生涯学習と捉えようとしている具体的な活動にはより近いのではないかと思う。	国の方でも生涯学習をしたことがある者の割合というのがあるが、その質問が平成30年度調査から変わったことにより、熊本市も国と同じ質問をして割合が上がった。	総合計画のアンケート調査では、八幡委員にご指摘いただいた方法で調査している。

5	加藤委員	変更前の問いについて、生涯学習というのを公民館等の施設でやっている講座だけだと捉えると、基準値の28.6%くらいになるのではないかと思う。そのため、生涯学習の例を具体的に挙げていたらもう少し多くなっていたのではないかと思う。また、変更後は複数回答ということで数値が上がったと自分なりに解釈した。そのため、アンケートを取るときには設問も大事だと感じた。		
6	松永委員	5ページの②自己学習に関するアンケート調査について、「市民の約60%が」や「約80%の市民が」という表記になっているが、1,189件の回答結果でそのように表記すると良くないのではないか。「回答された結果を見ると」等、言い方を変えた方が良いと思う。		ご指摘を踏まえ修正。
7	八幡委員	「回答者の80%が」等の表記にする、もしくは「アンケートによれば」等の但し書きが必要ではないかという提案だと思う。		6番と同様
8	萱野委員	3ページの上の方に書いてある「それぞれで学習していく」という部分の「それぞれ」が少し理解しにくい。2つの変化（社会情勢の変化と人々が求める価値観の変化）に学習というのがどのようにつながるのかを聞きたい。 (3) 熊本市の動向で総合計画のことが書いてあるが、前計画終了年度という表記について、時点の捉え方（今の時点と、計画が完成した時点の捉え方）の整理がどのようにになっているのかを聞きたい。	求められる学習が多岐に渡っているため、学習者が必要としているものを自分で見つけて学習していく社会になっていくという意味だが、表現を再度検討する。時点の捉え方についてはもう一度整理をして、計画が完成した時点で分かりやすい表現に改めたいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「それぞれで学習していく」をご指摘を踏まえ修正。</li> <li>・時点の捉え方を計画完成時点（令和6年3月末日時点）にすることで取り扱いを統一する。</li> </ul>
9	加藤委員	6ページの(4) 今後の方向性について、「民間主催の講座情報を確認し、市としては民間にはない講座等を開催することで、市民が多くの学習を選択できるようにします。」とあるが、市と民間が隔離しているように捉えられる。民間の取組は市の中心街に偏っていると思うため、民間がやっていることでも市がやっても良いのではないかと思う。そこで、「民間との連携を図りながら、多種多様な講座等の開催に努め、市民が多くの学習を選択できるようにします。」等の言い方にしてはどうか。 市は、民間の良いところも取り入れていく方が、市民にとっては選択肢が広がると思う。	この部分は、民間事業者と情報共有し、お互いに協力しながらやっていきたいという趣旨であったが、委員の皆様のご意見を踏まえて検討する。	ご指摘を踏まえ修正。 (11のご意見を踏まえ、「講座」を別の表現に改める。)
10	林田委員	民間にはないというよりも、民間ではやりにくい講座は確かにある。どうしても民間事業者としては、経済的な意味合いを持つため、人が集まりやすい講座や、お金を取っても大丈夫な講座を行うことになる。福祉やボランティア、手話などの講座はお金を取りにくく、手を出すのをためらってしまう。そのため、民間がやりにくい講座を公民館等でカバーしてもらおうとありがたい。 また、民間は人が集まりやすい場所ではしか開催しないため、地域的な遍在はどうしてもあると思う。		9番と同様

11	田川委員	6ページの(4)今後の方向性について、「民間主催の講座情報を確認し、市としては民間にはない講座等を開催することで」とあるが、生涯学習＝座学というイメージを壊すためには、ここで講座という言葉は2つつなげない方が良いと思う。そのため、別の言葉にした方が良いのではないか。	「学び」などの言葉に改める検討をする。	9番と同様
12	勝谷委員	生涯学習の場を限りなく提供していくことがこの計画の基本であると考えたときに、民間でやっているかどうかではなく、連携によって提供できるものの可能性が広がるということを書く方が良いのではないか。 私が所属している団体でも、講座をやろうと考えたときに様々な問題が出てくるが、公民館等と連携することで解決する問題もあると思う。また、民間がステップアップの講座をする際の前段部分を公民館等でやってもらうなど、いろいろな有機的なつながりによって学習の場を提供することができるというような書き方が良いと思う。		9番と同様
13	貴田委員	5ページの(3)課題と6ページの(4)今後の方向性が対応しているとより良いと思った。例えば、課題の4点目「広報と魅力ある講座・イベントの企画が必要」に対しては、「広報課と連携をして積極的に講座情報をPRしていく」等を今後の方向性に書いてはどうか。 また、アンケートに関しても、アンケート結果を踏まえているということをアピールするのであれば、「多様な講座の希望が挙がってきている中で、市民の声に応えた講座の企画に具体的に取り組んでいく」等を書き、1つでもそういった講座を新しく実施できると、アンケートが反映されていることが伝わるのではないかと思う。		ご指摘を踏まえ修正。

14	中川委員	<p>計画は後ろから考えていかないといけない。そのため、アンケート結果や現計画だけで説明が見つからない場合は、他のデータを持ってきて後ろにつなげたり、逆に後ろから前に何が必要なのかということを繰り返し考えていくべきである。</p> <p>抽象的なことばかりで、具体論が出てこないのが気になる。地域のつながりという部分で言うと、講座をやればいいという訳ではない。地域づくりには、良い仕事がある、良い自然風土がある、良い状況・環境、文化スポーツがある、学びの場がある、仲間がいる、良い行政、良い民間というものがあって、行政はそれをどうつないでどこに持っていくかが重要になる。</p> <p>点でやっているものを線で結び、その後、どういうものが地域づくりに活かされているかという想定をしておかないと、うまくつながっていかないのではないかなと思う。</p> <p>スポーツで言えば、校区の運動会や市民フェスタがつながって上がっていくことで、健康づくりや生きがいつくりを作っている。スポーツも生涯学習も狙う方向は同じだと思うため、基本理念の下まで書いた方が良い。</p> <p>学びをすることだけが生涯学習ではなく、それを生かしていかに地域の幸福度を高めていくかが大事である。個人の幸福度についてはよく分かるが、地域の幸福度の考え方がまだ欠けていると思う。</p> <p>ゴールがどこかが見えてこない。スポーツで言えば、健康や勝つことなど明確なゴールがあり、そこを目指していくという形がある。生涯学習もそのようなゴールを設定した方が良いと思う。学びと活動の循環の結果をもう少し具体的に書いた方が分かりやすいと思う。</p>		<p>ゴールは、総合計画の「生涯にわたって成長できる学びの推進」と考えている。</p>
15	八幡委員	<p>生涯学習というのは、時間軸でいろいろな学びの場をつなぐという理念ではないかなと思う。先ほど地域という話もあったが、空間軸でいろいろな学びの場をつなぐという発想もあるのではないかなと思った。また、それらは重なり合っているところもあると思う。限られた期間の中でそうした方法論にどこまでアプローチできるかというのはなかなか難しいことだと思うが、引き続き意見をいただきたい。</p>	<p>中川委員の発言について、第4章で具体的な取組を出していくが、それとは別のところで具体的なことについて表現をした方が良いということか。</p>	
16	中川委員	<p>生涯学習の姿と基本理念というところできちんと説明した後に、具体的な事業が出てくるとよりつながってくると思う。基本理念と具体的な事業のつなぎ目のところにもう少し説明を加えて欲しい。</p>		<p>つながりを意識して後半部分を作成する。また、第3回で具体的な取組について審議し、つながりが悪い部分については説明を追加するなどの調整を行う。</p>

17	八幡委員	理想としては、上から降りる部分と下からボトムアップでつないでいくという循環が有効に組み合わせられると良いと思う。今の方法論は、上の理念的なところから降ろしており、その時に、ある程度下の細かいところまで見通しを持って確定できれば良いが、なかなか難しい。次回が下のところ（具体的な取組）の検討になると思うので、それを詰めた段階で、上の理念が下と齟齬がないかというような見直しをもう一度行おうと思う。		
18	萱野委員	6ページの(4)今後の方向性について、1つ目に「市民が生涯学習に取り組んでいる実態が確認できたため」とあるが、「実態」と言うと、取り組んでいる形態や取り組み方という風にも受け取れるため、誤解を生むのではないかと思った。9ページの冒頭で、「本市が目指す生涯学習の姿は」とあるが、最後が「持続可能な社会になります。」となっており、主語と述語が合っていないように思う。11ページの基本施策2の冒頭に「社会教育が大きく変化する昨今において、人生をとおして学び続けることが必要な時代になっています。」とあるが、そのつながりが少し理解しにくい。「人生100年時代の中で、人生をとおして学び続けることが必要な時代になった」というとスッと入ってくる。		ご指摘を踏まえ修正。
19	八幡委員	<p>基本理念について、学び続けた結果に豊かな人生や幸福があり、持続可能な社会というのがあると思うが、生涯学習ということであれば、学び続けることの楽しさを大事にしても良いと思う。例えば、「市民一人ひとりが生涯にわたって（生き生きと）学び続けられる社会の実現」などの理念はどうか。</p> <p>別紙3の教育振興基本計画（概要版）の1ページに、「人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者」とあるが、これを具現化するものは、おそらく生涯学習という理念だと思う。そのため、8ページの生涯学習のイメージ図の中心にあるのは学習者一人ひとりであるべきだと思う。市政として行うのであれば、学び続ける市民（学習者）が生涯にわたって楽しく生き生きと学び続けるために、いろいろな環境を整備していくことが生涯学習に関わる行政の役割であり、この計画であるという理念の方が良いのではないかと思った。</p> <p>基本理念の「学びと活動の循環」というのは、学んだ成果をいろいろなところに生かせる、そういう活動につなぐという意味だと思うが、「活動」というのが少し分かりにくいのではないかと思った。そのため、「学びと社会参加をつなぐ」というような文言の方が分かりやすいのではないか。</p> <p>前回お尋ねしていたサブタイトルも含めて、委員の皆様よりご意見をいただきたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ楽しさについては、基本施策1に反映。</li> <li>・生涯学習のイメージ図については、生涯学習の範囲を分かりやすく示したものに修正。</li> </ul>

20			<p>ここで、本日欠席の原委員からいただいた意見を紹介</p> <p>○市民アンケートの結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの手法に不慣れな方（65歳以上）の回答が少ない反面、15歳～64歳までの意向を垣間見ることができたのではないかな。</li> <li>・設問によってはクロス分析することにより、より詳細な実態が分かるのではないかな。</li> <li>・問5 参加していない理由で、「日時が合わない」「イベントがあることを知らなかった」「興味あるイベントがなかった」という回答は全庁的に共有し、今後の生涯学習の広報手段等検討を図っていただきたい。</li> </ul> <p>○第2次熊本市生涯学習推進計画の（1～3章）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サブタイトルの例」</li> </ul> <p>9ページの2 本市が目指す生涯学習の姿を象徴するようなメッセージ性のあるものが良いのではないかな。</p> <p>思いつくままに提案すると、</p> <p>「新たなチャレンジ！ 学ぶ楽しさ！ 広がる仲間！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1ページの「社会の変化に合わせて見直し」は、「社会の変化を踏まえて（に対応するため）見直し」ではないかな。</li> <li>・同じく1ページの下から2行目「必要な事項をまとめた」は削除し、実現に向けた「第2次熊本市・・・」としてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素案の表現については、ご指摘を踏まえ修正。</li> <li>・サブタイトルについては、各委員からのご意見を集めて検討する。</li> </ul>
21	貴田委員	サブタイトルの例は日比野さんの言葉なのか。	そのとおり。	
22	貴田委員	学び自体が楽しいということが非常に大事だと思う。そこで、サブタイトルの案として「学びを楽しみ、幸せな人生を」等はどうかな。		各委員からのご意見を集めて検討する。
23	林田委員	我々がサブタイトルを付けると、分かりやすそうな、似たような言葉を綴ると思うが、今書いてあるサブタイトルの例はありきたりではなく、もしかしたら何度も繰り返し言っていれば、そのうち味がでるのではないかなと思った。		
24	八幡委員	私が考えたサブタイトルの例は、行政側だと「人生100年、学び続ける種をまく」で、市民寄りにすると「人生100年、学び続ける、生き生きと」である。	日比野文化顧問からも、本屋さんで目に付き、気軽に手に取ってもらえるようなものが良いのではないかと意見をいただいた。そこで、例えばサブタイトルを前面に出したり、表紙を生涯学習というものがより分かりやすくなるようなイラストにしたりするなど、手に取りやすいという視点で、表紙のデザインから考えていきたいと思っている。	各委員からのご意見を集めて検討する。
25	中川委員	あまり生涯学習にこだわらず、これをしたら役に立つなど、生活に近い方が良いのではないかな。		

26	八幡委員	<p>基本施策について、施策1は学習環境や内容の充実を目指す施策で、生涯にわたって生き生きと学び続けられる学習環境や内容の充実に関するもの、施策2は「生涯学習とつながる社会参加の機会の充実」などの文言の方が良いのではないかと思う。</p> <p>12ページの施策の体系図について、取組内容として挙がっている項目で本当に網羅されているのか疑問に思った。例えば、施策1の③については、美術館や公民館、文化施設等をこの項目に入れるのか、また、外国の方の人口が増えてきており、そのような方たちの生涯学習の推進というキーワードを⑩に入れなくてよいのか、さらには、施策2の②には、リスキリングやリカレント教育と社会参加を促す仕組みづくりなど、行政が果たす役割が明示されると良いのではないかと思った。</p> <p>別紙3の教育振興基本計画（概要版）の2ページ目の6番に書かれている内容は、市民教育としてぜひ取り組むべき内容だと思う。熊本市民全体に対して、どのような教育を提供していくかという項目立てが、具体的な内容に降ろしたときに見えるような形になると良いと思う。8番が生涯学習に関する教育政策ということではあるが、生涯学習と社会的な学習は重なる部分もあると思うため、それをどう生涯学習という視点で体系的・網羅的にこの計画で示されるかということも、次の取組に向けて目配りしてもらえるとありがたい。</p>		<p>・基本施策については、ご指摘のとおり修正。</p> <p>・12ページの体系図については、取組内容の分類整理を行う。</p>
議事 3				
	発言者	委員の発言内容	市の発言内容	素案への反映
27	萱野委員	<p>具体例の詳細を見てみると、外部のいろいろな関係機関（NPOや民間）との関連について書いてある。素案の前半部分でも関係機関との連携ということについて触れていたため、見せ方として、担当課の横に関係機関を書いた方が、行政だけでやっているのではないというイメージがしやすいのではないかと思う。</p>		第4章「施策の展開」に反映。
28	中川委員	<p>取組内容④のスポーツに関しては、2つだけでは少ない。</p> <p>スポーツでは、個人がウォーキングするのは地域スポーツとは言わず、ある場所で同じ目的を持って一緒に活動することによって、地域のスポーツという形になる。生涯学習の中で、協調的な内容を含んだものは何かあるのか。</p> <p>基本施策1は効果を実感できる学習機会の提供となっているが、市民がひとつの場所で実感できるというのは何か考えられるのか。</p> <p>ポイントで言われて、協議会をすれば実感できるという話ではなく、それは支援組織であって、それが目的ではない。目的としての活動というのは何か考えられるのか。</p>	生涯学習の機会を提供するに当たっては、環境の整備と学習内容の充実の2つが必要だと思い、取組内容としてはその2つに分けて考えている。	取組内容の分類整理を行い、学習内容の拡充の方でスポーツを位置づける。また、スポーツ振興課と連携して調整していく。

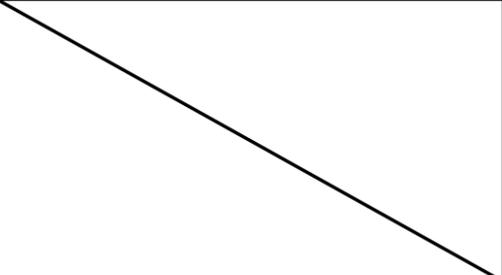
29	中川委員	そこにつながっていくものが考え出せると、もう少し生涯学習というのが具体的な内容に近づくのではないかと思う。スポーツで言えば、大会は同じ場所で同じようなことをやって、自分たちがやってきたことを競って結果を出していく。または、それによっていろいろな学びをしていく。それが次のステップにつながっていくという循環がある。生涯学習もそのような具体的な場があって、そこにみんなが参加できるというものが何か考えられないかと思った。		第4章「施策の展開」に反映。
30	八幡委員	中川委員は生涯スポーツ福祉課程を率いていらっしゃったので、生涯スポーツという考え方や内容については第一人者だと思う。そのため、どのように生涯にわたってスポーツと関わり続けるということを捉えたら良いのか、ご教授いただくとありがたい。		
31	中川委員	スポーツでやってきた内容を生涯学習という形に置き換えていけると良いと思っている。スポーツは事実としてやっている部分だが、生涯学習もそのような機会がみんなに提供できて、みんなが学んだものからひとつのことをやれるという場が出てくると、もう少し具体性が出てくるのではないかと思った。	別紙5に書いてある取組は、市役所の関係課がやっている取組になるため、中川委員がおっしゃった生涯学習に置き換えてという部分については、どの課が具体的に施策としてやるのか検討が必要。今は市役所の関係課が予算を取ってやっている事業を一覧にしており、あとは見せ方だと思っているため、委員の皆様にご相談させていただきながら作っていきたいと思う。	第4章「施策の展開」に反映。
32	八幡委員	いろいろな部署がやっている生涯学習に関する取組が集約された状態だと思うため、それを全体的な項目立ての中でうまく整理をしていただく作業をお願いすることになるかと思う。		
33	貴田委員	具体例をリスト化されているが、図のような形で、ビジュアルで見えるマップのような見え方のものを作ってはどうか。		第4章「施策の展開」に反映。
34	八幡委員	貴田委員、作っていただくことは可能か。		
35	貴田委員	そのまま採用になるかは分からないが、たたき的なものは作れる。	別紙4の後に別紙5が続くようなイメージだが、事務局としても、別紙5をそのまま載せるのではなく、もう少しデザインして分かりやすくする必要があると思っている。そのため、アイデアがあればぜひお願いしたい。	
36	松永委員	別紙5にある具体例は、今取り組んでいる内容がほぼ整理されているという捉え方で良いのか。	今やっている取組及び今後やろうとしている取組を記載している。	
37	松永委員	コロナがあって少し状況が変わっているため、本当にこのまま続くのかと疑問に思う取組がある。例えば、9ページの学びたいむについて、実際学校では時間が取れない等の理由で、取組自体がなかなか難しい状況である。指導課が今後形を変えてやっていくのかもしれないが、この一覧は、関係課が今やっていることを整理していくものなのか、それとも他にもいい案があったら載せていくのか疑問に思った。関係課が出してきたものを整理して載せていくということか。	基本的にはそうなる。	

38	八幡委員	<p>現行の生涯学習推進計画をイメージしておけば良いのか。</p>	<p>表現の仕方は変えたいと思っている。現行の計画では具体例として項目だけを出しているが、その辺りを修正し、もう少しこの計画でどのような取組をやりたいかが分かるような形にしたい。</p> <p>また、この計画は完成して終わりというのではなく、進行形でずっと継続していくようなものであるため、8年間の中で随時、関係課の事業を追加し、進捗管理をしていく。</p>	
39	八幡委員	<p>学ぶべき内容も時代が変わると新しいテーマが出てくると思うので、そのようなことにも臨機応変に対応できるような体制を取っていただくのも必要だと思った。</p>		<p>第5章「計画の推進に当たって」に反映。</p>
40	中川委員	<p>関係課が出してきたものをそのまま整理して出すというのであれば、この計画はいらないのではないかと思う。ここをアレンジして、新しい取組を関係課にやらしてもらわないと、計画作りにはならないと思う。今ある取組に前半部分を合わせてやっていくというのは納得できないのではないかと思う。オリジナリティがどのように生かされるかというところが、この計画の一番のポイントではないかと思う。</p>	<p>現行の計画から取組のデザインを変えようと思っているが、その中で、関係課が現在やっている取組だけを示すのではなく、今後必要な取組等について表現が必要だと思っている。例えば、課題としてこのような取組が必要であるとか、このような取組が足りていないなど、表現の仕方は今後検討していきたい。</p>	
41	萱野委員	<p>検証指標アについて、生涯学習によって人がつくられるということ測る指標であれば、シンプルに「生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合」などにしても良いのではないか。</p> <p>生涯学習が豊かな人生につながるということが最終目標であれば、この上に、「生涯学習により人生が豊かになったと感じる市民の割合」というのが一番しっくりくると思った。ただ、令和元年度を基準値とするのであれば、その時点で総合計画にそのような質問がなければ、新たに設定することは難しいのか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証指標アについては、ご指摘を踏まえ修正。</li> <li>・ 基準値については今後の検討とする。</li> </ul>
42	八幡委員	<p>生涯学習がすぐに豊かさや幸福につながるかを測ることが難しいという意見が第1回でも出されていたかと思う。</p>		

43	松永委員	<p>取組の具体例を見てみると、学校にも役立つ取組もあるため、そのようなところが計画段階で見えると良いと思った。計画で終わるのではなく、放課後児童などの問題についても、いろいろな課が関わった取組になると生きてくると思う。単独でやっていくとそこで止まってしまうが、連携ができると生涯学習につながるのではないかと思う。</p> <p>例えば、私の学校では、公民館と連携をしており、去年は琴の先生と尺八の先生を学校に招いた。自分たちだけではなかなかそのような先生とつながれないが、公民館から教えていただくことで招くことができた。公民館から情報をもらうことで、子どもたちの学びの場が広がるだけでなく、そのような経験が生涯学習につながると思った。</p> <p>各課がそれぞれ単独でやるのではなく、先ほどマップの話もあったが、項目で整理すると活用したくなると思った。</p>		第4章「施策の展開」に反映。
44	八幡委員	アンケートでも生涯学習の情報が届いていないという回答があったが、どのような届け方、見せ方をしていくのかを工夫する必要があると思った。		
45	林田委員	取組内容の具体例について、これは今現在やっていることであって、これを計画だと言い切ってしまうのは無理があると思う。今やっている取組の課題を書き、その課題を克服していったり、取組を有機的に結びつけていったりというようなつながりを作っていくと、計画と言えるのではないか。やはり、現状の課題を克服するためにはどうしたら良いか、というところがあっても良いと思う。		評価シートにおいて対応する。
46	八幡委員	今の熊本市の生涯学習に関する取組の課題について、どのように捉えているのか状況を聞きたい。	多くの人に届けるということが課題だと思っている。アンケートでも、イベントや講座があることを知らなかったという回答を多くいただいているため、いろいろな方に情報を届けていくことが重要だと考えている。	
47	八幡委員	委員の皆様が考えている課題はどのようなことか。		

48	中川委員	<p>私は2軸で考えている。1つは、ライフステージごとにどのような課題がどこにあるのか、どのような学びが必要なのか。もう1つは、地域づくりに必要な要因は何か、どこの年代で何が必要かということをしちんと配置できるという具体性を生涯学習課で作っておかないと、現状の課題の考え方と、生涯学習にとっての課題の考えが一致する場合としない場合がある。</p> <p>あまりにも現実を直視すると、私たちがすべき内容から外れてしまうということもある。どこを軸にして何を見ていくか、例えば、保育園ではどのような学びが必要なのかという具体的な部分をおさえていかないと、具体的な内容としてそれをトータルで行ったときに、豊かな人生の説明ができないのではないかと思う。何を軸に課題を考えていくかを検討していただくと、もう少し分かりやすい課題になると思う。</p> <p>例えば、高齢者にとっての地域づくりに対する学びや職業という形で言うと、どのような課題が残ってくるかが分かりやすいと思う。100年と言いながら、100年後をどう捉えて、それに対して学びをどういう形で提供していくかというのがなかなか見えてこない。そこをきちんと作っていくこと、また、一度にできる訳ではないため、それを変えながら充実していくという仕組みをしていかないと、積み上げができていかない。</p> <p>前回やったのと今回やったのが違うという積み上げではなく、前回やった内容を変えていくことによって、さらにステップアップできるという仕組みにしないと、見直しにならない。ただA案をやって、次はB案をやって、C案をやっていくというのでは、せっかくやっている内容が積み上げられてこないのではないかと思う。そのため、事業と理念との間を時間をかけて考えていく必要がある。おそらく一度にはできない話だと思うが、そのような方針でやっていくと、もう少しつながるのではないかと思う。</p>		<p>ライフステージに応じたプランについては、第4章「施策の展開」に反映。</p>
----	------	---	--	---

49	八幡委員	生涯を網羅する形で、穴場がないか、課題はないか、今ひとつ現状を点検してみるところから始めても良いのではないかというご提案だったかと思う。	
50	勝谷委員	<p>今、社会はとても変化しており、昨年と同じ時期から1年間で外国の方が約1,500人増えている。また、8月から9月にかけて、台湾関係で熊本市内では1,000人規模ぐらいで転入してくるといった想定がある。そのような中、今後の社会というものを見たときに、もう少し国際的な視点というものが各課の取組やすべてのライフステージにおいて関係してくるといったことが考えられる。そのため、各課がやっている生涯学習の取組のアンケートということだけではなく、そのような視点で事業を考えているのか、計画を策定する中で、生涯学習課の方でこのような視点を持った事業というのがどうなのかと思った。</p> <p>他の課への助言というのは難しいとは思いますが、委員会でこのような意見が出たからということに関係課にも言えるのではないかと。</p> <p>既に、TSMCの絡みで外国の方が入ってきている。そのような方々が地域に在住して、地域の一員として生活していくという視点も持って、生涯学習という中に組み込んでいく必要があるのではないかと。日本人としての人口減少は進んでおり、そこを食い止めているのが外国人の転入者という状況を考えると、これは今後おそらく進んでいく。加えて、そのような外国の方にとっても住みよい地域の場にならない限り、人口が全体的に減っていくという全国的な状況というところも加味していただけると良いと思う。</p>	国際課と共有し、検討する。
51	八幡委員	グローバル化というのも生涯学習分野に限らず、熊本市が課題とすべきテーマかもしれない。ぜひそのような視点も取り入れていただきたいと思う。	国際課と共有し、検討する。

52			<p>ここで、本日欠席の原委員からいただいた意見を紹介</p> <p>○取組内容の具体例について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2ページ 取組内容④スポーツに対する環境の整備 1又は2へ指定管理者として体育施設を管理運営している「熊本文化・スポーツ財団と連携」を追加</li> <li>・6ページ 取組内容③ 文化芸術の取組の推進 11 「蔚山市との文化交流事業」を「諸外国の都市との文化交流事業」に変更（特筆する必要性はないのでは）</li> </ul> <p>文化交流は相互理解を育むうえで重要、色々な諸外国との文化交流とすべきではないか。</p> <p>○追記していただきたい項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6ページ 取組内容③ 文化芸術の取組の推進 15 くまもと市文化協会の設立（文化政策課） 地域文化の振興及び育成、継承を図り、各区文化協会との連携を深め本市の文化芸術の創造と発展に資することを目的に設置</li> <li>16 くまもと大邦楽祭の開催（文化政策課） 「くまもと全国邦楽コンクール」と「くまもと子ども邦楽祭」の2部構成で、若手演奏家の発掘と邦楽への関心と親しむ機会として開催</li> <li>・7ページ 取組内容⑩障がい者の生涯学習の推進 8 スペシャルオリムピックス地区大会の開催 知的障がいのある人たちに日常的なスポーツ活動プログラムとその発表の場である競技会を提供し、彼らの自立と社会参加を目的に、毎年地区大会を開催している。</li> <li>9 楽球（レクレーションボッチャ）甲子園の開催 夏季パラリンピックの正式種目で、障がいのある人が参加する「チャレンジドの部」と障がいのある人とない人が一緒に参加する「ユニファイドの部」を毎年開催し、子どもから高齢者まで誰でも気軽に楽しめるスポーツ大会。</li> </ul>	<p>文化政策課、スポーツ振興課にご意見を提供し、取組内容として追加すべきか検討する。</p>
53	加藤委員	<p>完成した計画はどこで誰に配るのか。今まで一般市民までは配っていなかったのではないかと思う。あまり表紙にお金をかけなくても良いのではないかと思う。表紙からこだわってみんなが手に取るようにということだが、どのような人に見てもらおうことを考えているのか。</p>	<p>配り先は、市の関係課や公民館、民間企業、学校、社会教育関係施設等を予定している。加えて、ホームページ等でデータを載せたいと思っている。また、概要版を印刷して配ろうと考えている。</p> <p>表紙については、お金をかけようとは思っておらず、自前で作ろうと考えている。</p>	

【素案】

# 100 歩歩けば 100 倍幸せ

＜第 2 次熊本市生涯学習推進計画＞  
令和 6 年度～令和 13 年度

【サブタイトルの候補】

100 歩歩けば 100 倍幸せ  
預金通帳にはない幸せづくり  
新たなチャレンジ！学ぶ楽しさ！広がる仲間！  
人生 100 年、学び続ける種をまく  
人生 100 年、学び続ける、生き生きと  
学びを楽しみ、幸せな人生を  
幸せな暮らし耕す学びから  
楽しく学ぶ角には福来る

## 表紙全面に イラスト

令和 6 年（2024 年）●月  
熊本市教育委員会

## 目 次

■ 第 1 章 策定の趣旨 .....	1
■ 第 2 章 生涯学習を取り巻く現状と課題 .....	2
1 これまでの熊本市の生涯学習推進 .....	2
2 生涯学習を取り巻く情勢の変化 .....	2
3 前計画の実績と課題 .....	4
■ 第 3 章 本市が目指す生涯学習の姿と基本理念 .....	7
1 基本的事項 .....	7
2 本市が目指す生涯学習の姿 .....	9
3 基本理念 .....	10
4 検証指標の設定 .....	10
5 基本施策 .....	11
6 <del>施策の</del> 体系図 .....	12
■ 第 4 章 <b>基本施策の展開</b> .....	<b>13</b>
1 <del>概要具体的な推進施策</del> .....	<del>13</del>
2 <b>取組内容</b> .....	<b>13</b>
■ 第 5 章 計画の推進に当たって .....	<b>29</b>
1 計画の進行管理に係る基本的な考え方 .....	<b>29</b>
2 計画の推進体制 .....	<b>29</b>
3 <del>各主体に期待する役割</del> .....	<del>29</del>
■ 参考資料 .....	

# 第1章

## 策定の趣旨

熊本市では、平成14年（2002年）に本市の生涯学習推進に関する基本的な考え方や方向性を示す「熊本市生涯学習指針」を策定し、生涯学習の振興に積極的に取り組んできました。令和元年度（2019年度）には効果検証に重点を置くため、令和2年度（2020年度）から令和5年度（2023年度）を計画期間とする熊本市生涯学習推進計画（以下、前計画）を策定しました。

前計画では学びと活動の循環による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の流行を大きな契機として、より社会が大きく変化しており、デジタル人材の育成、DXへの対応など、社会が求める学びが変化してきました。

前計画期間の満了に当たり、これまで進めてきた「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を社会の変化を踏まえてに合わせるように見直し、本市が目指す「上質な生活都市」の実現に向けた必要な事項をまとめた「第2次熊本市生涯学習推進計画」を新たに策定するものです。

意見一覧⑳

## 第2章

# 生涯学習を取り巻く現状と課題

### 1 これまでの熊本市の生涯学習推進

熊本市では、平成14年(2002年)3月に生涯学習推進施策を総合的かつ体系的に推進するため、熊本市生涯学習指針を策定し、「学習推進体制の整備」「学習活動の充実と支援」「学習拠点の整備」を基本目標として、生涯学習に関する取組を推進してきました。

平成21年(2009年)3月には、生涯学習を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、新たな熊本市生涯学習指針を策定し、「生涯学習ネットワークの構築」「学習機会の充実」「学習成果を生かす環境づくり」を基本施策として、持続可能な知の循環型社会の実現を目指した取組を促進しました。

また、中間年である平成25年度(2013年度)には、施策体系などは維持しつつ、「現代的・社会的な課題と市民ニーズに対応した学習支援」の取組を拡充するなどの見直しを行いました。

さらに、平成29年(2017年)4月、自主自立のまちづくりを推進するため、市内17箇所にまちづくりセンターを設置し、公設公民館とまちづくりが一体となって地域活動支援と連携した生涯学習の推進に取り組む体制を構築しました。

平成30年度(2018年度)には、熊本市生涯学習指針の見直しを行い、目標管理を強化することとし、令和2年度(2020年度)に指針から計画に移行しました。前計画ではより豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、市民自らが担い手として地域活動に主体的に参加することで当事者意識が高まり、これまで以上に生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」をとおして「学びと活動の循環」を醸成していくことを目指しました。

### 2 生涯学習を取り巻く情勢の変化

#### (1) 社会的背景

前計画策定時に引き続き、少子化・人口減少や高齢化が進んでいることに加え、令和元年度(2019年度)から続いた新型コロナウイルス感染症の流行は社会に大きな影響を与え、社会が大きく変化しました。このような中、デジタル人材の育成、DXへの対応など、社会が求める学びが変化しています。

また、物質的な豊かさから、精神的な豊かさが求められており、さらに、豊かさに加えて健康までを含めて幸福や生きがい捉える「ウェルビーイング

グ」の考え方が注目されています。

このように、社会情勢やの変化、人々が求める価値観にの変化が起きており、市民一人ひとりにとっての必要な学びが多岐にわたります。はそれぞれで学習していくことが必要になり、必要な学びを身につける中で、生涯学習の重要性がは増していると言えます。さらに、生涯にわたって成長するために、リカレント教育・リスキリングが求められています。

意見一覧⑧

## (2) 国の動向

令和5年(2023年)6月に「教育振興基本計画」が閣議決定され、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を目指すこととしました。そのような中、グローバル化やDXの推進等による社会の変化に対応できる人材の育成、現代社会における地球規模の諸課題を自らに關係する問題として主体的に捉え、その解決に向けて自ら考え、行動する力を身につけるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育、リカレント教育を通じた高度専門人材育成等を掲げています。

## (3) 熊本市の動向

令和元年度(2019年度)第7次総合計画の中間見直しを行い、上質な生活都市の実現に向けて取り組んできました。その後、新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、5類に移行する令和5年(2023年)5月までの間、様々な活動が制限されていました。そのような中、熊本県にTSMCの進出が決定し、熊本市に住む外国人<sup>※+</sup>が増加しているなど、新たな社会的ニーズへの対応が求められています。

また、前計画終了年度である令和5年度(2023年度)は、人口減少や少子高齢化、交通渋滞といった本市を取り巻く様々な課題に対応するとともに、DXといった時代の潮流を捉えた、市民の皆さんと共有できる「次期総合計画」をの策定を目指しています。

~~※+ 在留外国人数：7,868人(令和5年7月1日時点)~~

### 3 前計画の実績と課題

#### (1) 主な取組

前計画では「市民一人ひとりの心豊かな暮らしの実現」と「学びと活動の循環による自主自立のまちづくりの実現」を基本理念と定め、基本理念の実現のために「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の促進を目指す3つの基本施策、13の推進施策を策定しました。また、計画の進捗管理をする際は、推進施策ごとに整理した具体的な取組177項目に成果指標を設定し、目標達成を目指しました。

#### (2) 実績

##### ① 前計画の検証

基本理念の達成を確認するために3つ検証指標を設定し、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の成果を測りました。

検証指標	基準値 (H27)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	検証値 (R5)
ア 過去1年間に生涯学習を行った市民の割合	28.6%	87.60%	87.51%	87.32%	50.0%
検証指標	基準値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	検証値 (R5)
イ 学習を通じて新たな仲間づくりができた市民の割合	24.1%	22.3%	24.5%	27.0%	増加
ウ 学習を通じて地域の活動やボランティア活動に参加した市民の割合	12.2%	6.9%	7.6%	8.4%	増加

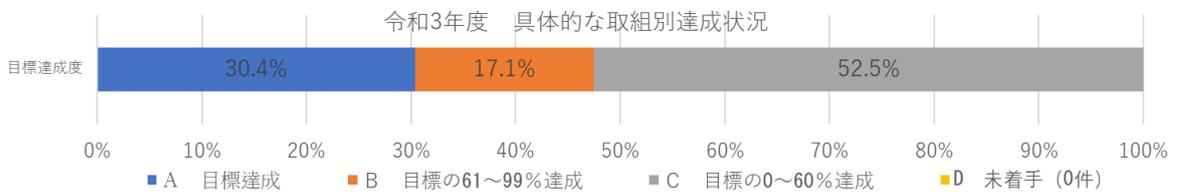
基本理念1の達成を検証指標アで、基本理念2の達成を検証指標イ、ウで確認しました。検証指標アは、~~実施主体を問わず1年間で学習をした市民の割合であり、市主催の講座を受講した割合とは異なります。~~令和元年度(2019年度)から質問を変更したため、基準値から大きく増加しました。これは、質問に生涯学習という言葉を使わなくなったことにより、市民の学習実態をより把握できるようになったものと考えています。

意見一覧②

変更前：あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。

変更後：あなたは、この1年くらいの間に、どのような場所や形態で学習をしたことがありますか。(複数回答)

また、基本理念を達成するための「具体的な取組」全177件の検証指標を達成度ごとに分類すると次のとおりになります。



令和3年度（2021年度）実績で目標達成をしていない（B、C評価）割合は69.6%と高い状況であり、目標達成できなかった理由を確認すると、新型コロナウイルス感染症の流行を挙げているものが48%ありました。

## ②自己学習に関するアンケート調査

前計画の成果を測る一環として、市民の学習状況を調査するため、令和5年（2023年）6月に自己学習に関するアンケート調査を実施しました。アンケートで判明した主な事項は以下のとおりです。

- ・**回答者市民**の約40%がSNSなどのインターネットを利用して情報を収集

しています。

- ・市が主催する講座・イベントに参加した**回答者市民**の割合が約25%と低くなっています。
- ・市が主催する講座・イベントに参加していない**回答者市民**の約60%が「イベントがあることを知らなかった」「興味のあるイベントがなかった」を理由に挙げています。
- ・**回答者の約80%がの市民が**リカレント教育・リスキリングに関心を持っています。

意見一覧⑥⑦

## （3）課題

①及び②の結果を踏まえた課題は次のとおりです。

- ・生涯学習を行った市民は増加していますが、市が取り組んだ活動は目標達成できていないものが70%近くあります。このことから、市の取組だけでなく、民間主催や自主的な学習が多いものと推測されます。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、目標達成できなかった取組が多数あります。これらの取組はこれから再開していきますが、その際にはコロナ禍で培ったリモートでの開催など、DXの推進に取り組む必要があります。
- ・学習を通じて仲間づくりや地域の貢献活動につながった市民の割合が低いことから、生涯学習の成果を生かせる社会づくりを進めていく必要があります。

ます。

- ・市の講座・イベントへの参加者増加には、広報と魅力ある講座・イベントの企画が必要です。
- ・リカレント教育やリスキリングの情報発信が必要です。

#### (4) 今後の方向性

意見一覧⑱

- ・市民の多くが生涯学習に取り組んでいることから~~実態が確認できたため、~~今後は、市民に対して豊富な学びの提供ができるよう取り組みます。その際は、民間主催の~~学習講座~~情報を確認し、~~民間との連携を~~図りながら、~~多種多様な学びの機会の提供に努め、市民が多くの学びを選択できるようにします。市としては民間にはない講座等を開催することで、市民が多くの学習を選択できるようにします。~~
- ・コロナ禍で培ったリモートでの開催など、DXの推進に取り組みます。
- ・「つながりづくり」「地域づくり」など学びの成果を生かせる社会づくりに注力します。その際には、地域団体やNPO法人など多様な団体と連携し、多くの市民に対応できるよう取り組みます。
- ・市の講座やイベントを多くの市民に知ってもらうために、積極的に情報を発信します。また、市民から寄せられる多様な講座の希望に応えた講座の企画に取り組みます。
- ・リカレント教育とリスキリングは、大学や民間事業者での取組が多いことから、市民と大学、民間事業者とを結びつけていく取組を目指します。

意見一覧⑨⑩⑪⑫⑬

# 第3章

## 本市が目指す生涯学習の姿と 基本理念

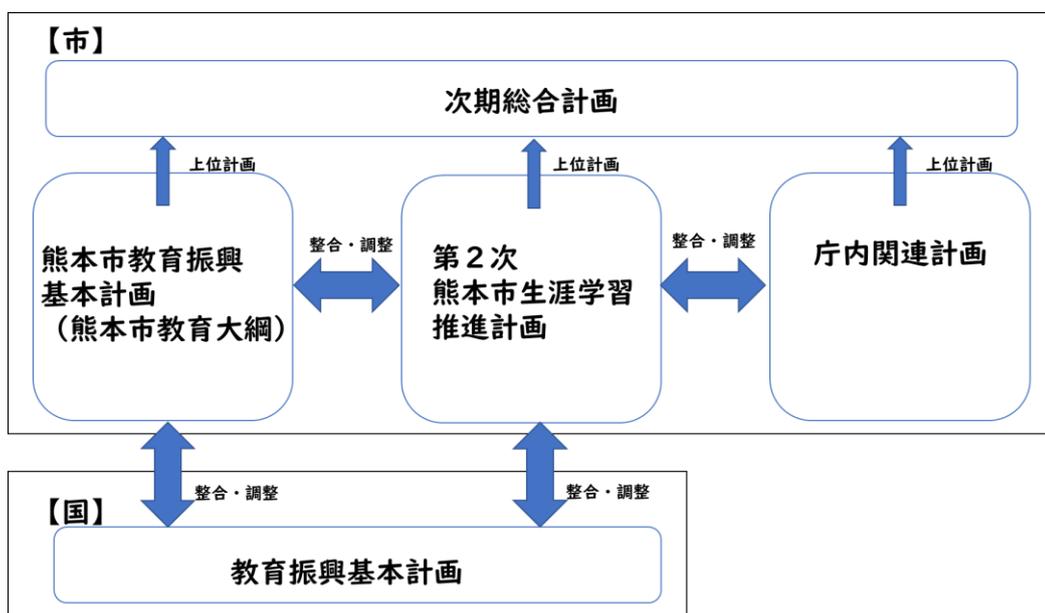
### 1 基本的事項

#### (1) 計画の位置づけ

この計画は、本市の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示したものであり、次期総合計画で目指す社会を生涯学習の面から実現させるものです。

本計画の策定に当たっては、前計画を継承しつつ、本市の課題が解消できるものとし、次期熊本市教育振興基本計画（熊本市教育大綱）を始めとする関連計画との整合を図るとともに、国の「教育振興基本計画」（令和5年6月）を参考とします。

#### ○生涯学習と関連計画の関係図



#### (2) 計画の期間

計画の期間は、次期総合計画との整合を踏まえ、令和6年度（2024年度）から令和13年度（2031年度）までの8年間とします。

また、次期総合計画での見直しに合わせて本計画も見直します。

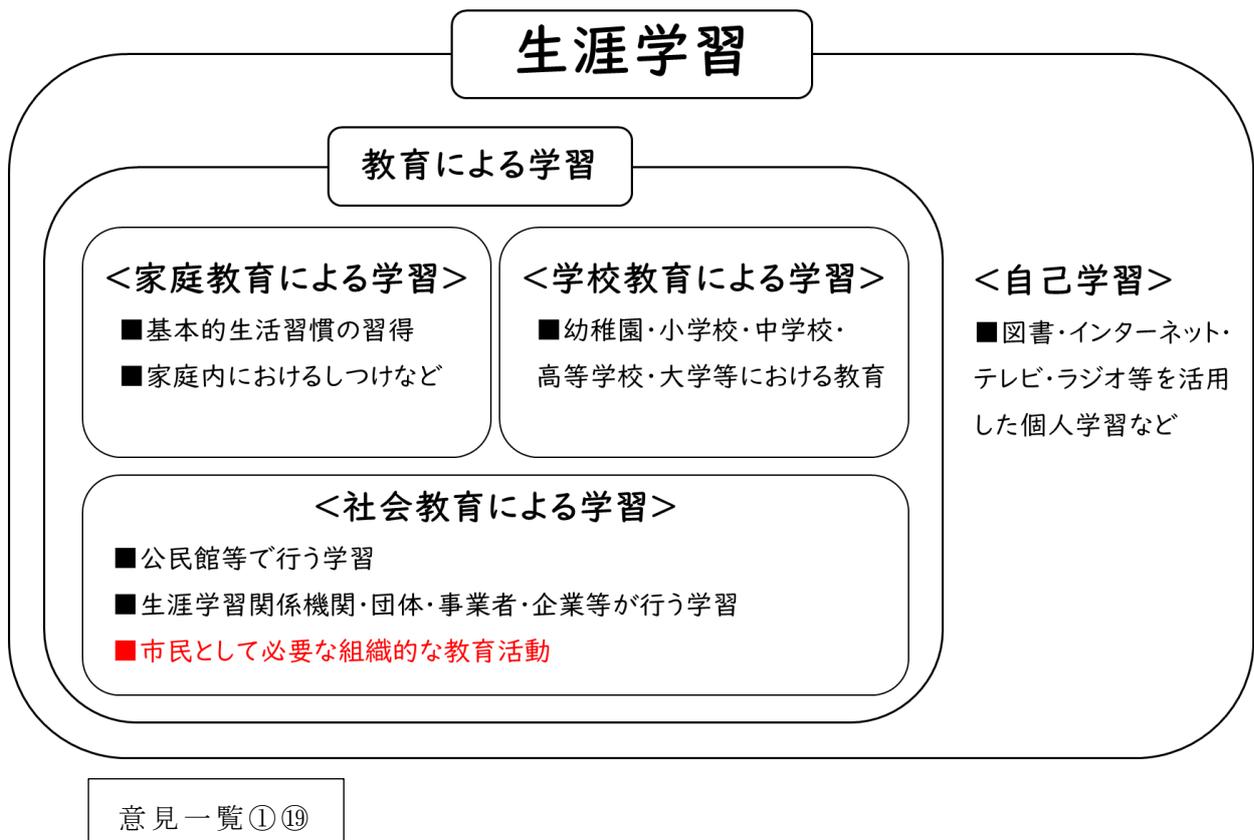
### (3) 生涯学習の定義

生涯学習とは、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、家庭教育、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

つまり、次の①～③を総括した一連の学習活動のことを言います。

- ① 家庭教育を通じて、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につけ、豊かな心を育てること。
- ② 学校教育を通じて、基礎的な学力を身につけ、わかる喜び、学ぶ楽しさや成功体験を通じ、自発的意思により生涯にわたって学習するための基礎を培うこと。
- ③ 各人が自発的に、自らの意思で必要に応じて自己に適した手段・方法を自由に選択して、生涯にわたって社会教育による学習や自己学習など様々な学習活動を行うこと。

### ○生涯学習のイメージ図



## 2 本市が目指す生涯学習の姿

本市が**目指す生涯学習の姿**は、生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指します。~~長くなります。~~

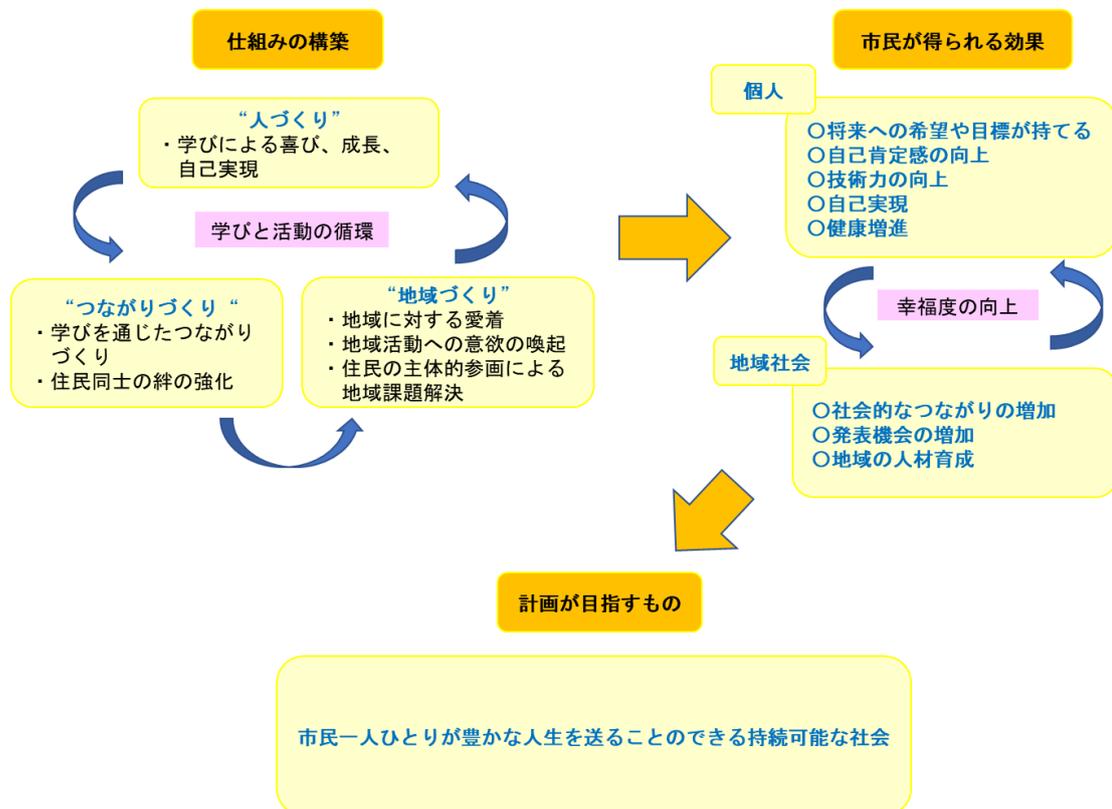
これは、市民に必要な学びを提供し、市民は学び、その学びの成果を生かす環境をつくること、いわゆる「学びと活動の循環」により、**市民一人ひとり個人**の幸せが地域へ広がり、地域の豊かさにつながることで、**市民個人と地域**が互いに豊かになると考えます。

さらに、これからの地域社会においては、**生涯学習の成果が長持ち**、例えば独居高齢者や不登校生徒などがつながるきっかけになるなど、生涯学習が「人づくり」「地域づくり」につながるような情報発信を目指します。

最終的には、本市の生涯学習による幸福度（ウェルビーイング）の向上が『上質な生活都市』となるよう目指していきます。

~~また、本計画は、完成した計画として本市が提供するだけにとどまらず、進行形で継続性があるものとしてより高めていくために、随時、市民の意見を反映した取組を追加していきます。~~

### ○全体構想図



### 3 基本理念

本計画では、本市が目指す生涯学習の姿を実現するため、次のとおり基本理念を掲げます。

「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会の実現

今般、新型コロナウイルス感染症の流行や、Society5.0の実現に向けて社会構造が変化しています。その変化に対応し、市民一人ひとりが心豊かな人生を送るためには生涯にわたって学び続けることが重要です。

そして、今後は学んだ成果を適切に生かすことのできる社会の実現が求められています。

これまでも、生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指してきましたが、今後も重要性は変わらないものと考えており、社会構造の変化を踏まえてより効果的な「学びと活動の循環」の仕組みに改善していきます。

### 4 検証指標の設定

本計画の達成度を図るため、次のとおり検証指標を設定します。

なお、直近の実績値（令和3年度（2021年度））は新型コロナウイルス感染症の流行による低下が見られるため、令和元年度（2019年度）を基準値とします。

意見一覧④

検証指標	基準値 (R1)	参考値 (R3)	検証値 (R13)
ア 生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合 <del>生涯学習に満足できた市民の割合（検討中）</del>	検討中	検討中	検討中
イ 学習を通じて新たな仲間づくりができた市民の割合	24.1%	24.5%	50.0%
ウ 学習を通じて地域の活動やボランティア活動に参加した市民の割合	12.2%	7.6%	30.0%

※検証指標ア、イ、ウはそれぞれ、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を図る指標として、熊本市総合計画市民アンケートにより測定します。

## 5 基本施策

基本理念を実現するため、次の2つの基本施策を定め、生涯学習を推進します。

### 〈基本施策1〉 市民が学ぶ楽しさ生涯学習の効果を実感できる学習機会の提供

市民一人ひとりの生涯学習を推進するためには、学習できる環境の整備と提供する学習内容の充実が必要です。

そこで、学習環境の整備として民間**教育事業者**や大学との連携強化、**施設の機能充実**、デジタル化の推進など、市民が学習しやすい環境をつくります。

また、学習内容を充実させるため、ライフステージ、現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習機会・内容の充実を図っていきます。

### 〈基本施策2〉 生涯学習とつながる社会参加の機会の充実

意見一覧⑳

意見一覧㉑

#### 生涯学習の成果を生かせる地域や社会の実現

人生100年時代の中で、人生をとおして学び続けることが必要な時代になっています。~~社会教育が大きく変化する昨今において、人生をとおして学び続けることが必要な時代になっています。~~自ら学んだ成果が適切に評価され、他者に発表する機会を得られることは、新たな気づきや刺激になるとともに、次の学びへの意欲の向上につながります。

また、学んだ成果が地域に還元されることで、地域社会全体の教育力の向上にも貢献するというように、地域での知の循環が形成されます。

このため、**「学んだ成果を適切に生かすことの地域社会に還元できる社会仕組みづくり」**を進めていきます。

併せて、複雑化・多様化した地域課題解決に対応するために、地域住民と多様な活動主体がつながり、課題を共有し、解決策を検討していくためのネットワークを構築します。

## 6 施策の体系図

基本理念 「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会の実現

### 基本施策1 市民が学ぶ楽しさ生涯学習の効果を実感できる学習機会の提供

#### 取組内容

##### 【学習環境の整備】

- ① 生涯学習関係機関など等との連携
- ② 生涯学習推進に関する情報の収集と提供
- ③ ~~図書館・博物館等における生涯学習の推進~~
- ④ ~~スポーツに対する環境の整備~~
- ③⑤ デジタル化の推進

##### 【学習内容の充実】

- ④⑥ 文化芸術の取組の推進  
~~ライフステージに応じた学習内容の充実~~
- ⑤⑦ スポーツ活動の推進  
~~家庭・地域の教育力の向上~~
- ⑥⑧ 多文化共生の推進  
~~現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習内容の充実~~
- ⑦⑨ 図書館・博物館などにおける生涯学習の推進  
~~文化芸術の取組の推進~~
- ⑧⑩ 障がい者の生涯学習の推進
- ⑨⑪ ライフステージに応じた学習内容の充実  
~~情報リテラシーの向上~~
- ⑩ 現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習内容の充実

### 基本施策2 生涯学習とつながる社会参加の機会の充実 生涯学習の成果を生かせる地域や社会の実現

#### 取組内容

- ① 人材やボランティアの養成・活用
- ② 学習成果を生かす取組の推進
- ③ 地域と学校との連携・協働の推進
- ④ 災害に強い地域コミュニティづくりの推進

【素案】

# 100 歩歩けば 100 倍幸せ

＜第 2 次熊本市生涯学習推進計画＞  
令和 6 年度～令和 13 年度

【サブタイトルの候補】

100 歩歩けば 100 倍幸せ  
預金通帳にはない幸せづくり  
新たなチャレンジ！学ぶ楽しさ！広がる仲間！  
人生 100 年、学び続ける種をまく  
人生 100 年、学び続ける、生き生きと  
学びを楽しみ、幸せな人生を  
幸せな暮らし耕す学びから  
楽しく学ぶ角には福来る

## 表紙全面に イラスト

令和 6 年（2024 年）●月  
熊本市教育委員会

## 目 次

■ 第 1 章 策定の趣旨 .....	1
■ 第 2 章 生涯学習を取り巻く現状と課題 .....	2
1 これまでの熊本市の生涯学習推進 .....	2
2 生涯学習を取り巻く情勢の変化 .....	2
3 前計画の実績と課題 .....	4
■ 第 3 章 本市が目指す生涯学習の姿と基本理念 .....	7
1 基本的事項 .....	7
2 本市が目指す生涯学習の姿 .....	9
3 基本理念 .....	10
4 検証指標の設定 .....	10
5 基本施策 .....	11
6 体系図 .....	12
■ 第 4 章 基本施策の展開 .....	13
1 概要 .....	13
2 取組内容 .....	13
■ 第 5 章 計画の推進に当たって .....	29
1 計画の進行管理に係る基本的な考え方 .....	29
2 計画の推進体制 .....	29
■ 参考資料 .....	

# 第1章

## 策定の趣旨

熊本市では、平成14年（2002年）に本市の生涯学習推進に関する基本的な考え方や方向性を示す「熊本市生涯学習指針」を策定し、生涯学習の振興に積極的に取り組んできました。令和元年度（2019年度）には効果検証に重点を置くため、令和2年度（2020年度）から令和5年度（2023年度）を計画期間とする熊本市生涯学習推進計画（以下、前計画）を策定しました。

前計画では学びと活動の循環による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の流行を大きな契機として、より社会が大きく変化しており、デジタル人材の育成、DXへの対応など、社会が求める学びが変化してきました。

前計画期間の満了に当たり、これまで進めてきた「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を社会の変化を踏まえて見直し、本市が目指す「上質な生活都市」の実現に向けた「第2次熊本市生涯学習推進計画」を新たに策定するものです。

## 第2章

# 生涯学習を取り巻く現状と課題

### 1 これまでの熊本市の生涯学習推進

熊本市では、平成14年(2002年)3月に生涯学習推進施策を総合的かつ体系的に推進するため、熊本市生涯学習指針を策定し、「学習推進体制の整備」「学習活動の充実と支援」「学習拠点の整備」を基本目標として、生涯学習に関する取組を推進してきました。

平成21年(2009年)3月には、生涯学習を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、新たな熊本市生涯学習指針を策定し、「生涯学習ネットワークの構築」「学習機会の充実」「学習成果を生かす環境づくり」を基本施策として、持続可能な知の循環型社会の実現を目指した取組を促進しました。

また、中間年である平成25年度(2013年度)には、施策体系などは維持しつつ、「現代的・社会的な課題と市民ニーズに対応した学習支援」の取組を拡充するなどの見直しを行いました。

さらに、平成29年(2017年)4月、自主自立のまちづくりを推進するため、市内17箇所にまちづくりセンターを設置し、公設公民館とまちづくりが一体となって地域活動支援と連携した生涯学習の推進に取り組む体制を構築しました。

平成30年度(2018年度)には、熊本市生涯学習指針の見直しを行い、目標管理を強化することとし、令和2年度(2020年度)に指針から計画に移行しました。前計画ではより豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、市民自らが担い手として地域活動に主体的に参加することで当事者意識が高まり、これまで以上に生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」をとおして「学びと活動の循環」を醸成していくことを目指しました。

### 2 生涯学習を取り巻く情勢の変化

#### (1) 社会的背景

前計画策定時に引き続き、少子化・人口減少や高齢化が進んでいることに加え、令和元年度(2019年度)から続いた新型コロナウイルス感染症の流行は社会に大きな影響を与え、社会が大きく変化しました。このような中、デジタル人材の育成、DXへの対応など、社会が求める学びが変化しています。

また、物質的な豊かさから、精神的な豊かさが求められており、さらに、豊かさに加えて健康までを含めて幸福や生きがい捉える「ウェルビーイング

グ」の考え方が注目されています。

このように、社会情勢や人々が求める価値観に変化が起きており、市民一人ひとりにとっての必要な学びが多岐にわたります。必要な学びを身につける中で、生涯学習の重要性が増しています。さらに、生涯にわたって成長するために、リカレント教育・リスキリングが求められています。

## （２）国の動向

令和５年（２０２３年）６月に「教育振興基本計画」が閣議決定され、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を目指すこととしました。そのような中、グローバル化やDXの推進等による社会の変化に対応できる人材の育成、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関係する問題として主体的に捉え、その解決に向けて自ら考え、行動する力を身につけるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育、リカレント教育を通じた高度専門人材育成等を掲げています。

## （３）熊本市の動向

令和元年度（２０１９年度）第７次総合計画の中間見直しを行い、上質な生活都市の実現に向けて取り組んできました。その後、新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、５類に移行する令和５年（２０２３年）５月までの間、様々な活動が制限されていました。そのような中、熊本県にTSMCの進出が決定し、熊本市に住む外国人が増加しているなど、新たな社会的ニーズへの対応が求められています。

また、前計画終了年度である令和５年度（２０２３年度）は、人口減少や少子高齢化、交通渋滞といった本市を取り巻く様々な課題に対応するとともに、DXといった時代の潮流を捉えた、市民の皆さんと共有できる「次期総合計画」を策定します。

### 3 前計画の実績と課題

#### (1) 主な取組

前計画では「市民一人ひとりの心豊かな暮らしの実現」と「学びと活動の循環による自主自立のまちづくりの実現」を基本理念と定め、基本理念の実現のために「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の促進を目指す3つの基本施策、13の推進施策を策定しました。また、計画の進捗管理をする際は、推進施策ごとに整理した具体的な取組177項目に成果指標を設定し、目標達成を目指しました。

#### (2) 実績

##### ① 前計画の検証

基本理念の達成を確認するために3つ検証指標を設定し、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の成果を測りました。

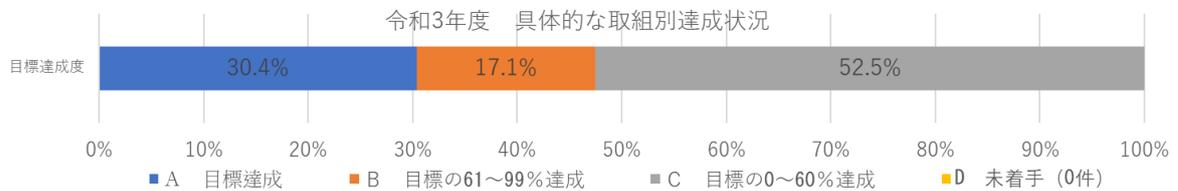
検証指標	基準値 (H27)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	検証値 (R5)
ア 過去1年間に生涯学習を行った市民の割合	28.6%	87.60%	87.51%	87.32%	50.0%
検証指標	基準値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	検証値 (R5)
イ 学習を通じて新たな仲間づくりができた市民の割合	24.1%	22.3%	24.5%	27.0%	増加
ウ 学習を通じて地域の活動やボランティア活動に参加した市民の割合	12.2%	6.9%	7.6%	8.4%	増加

基本理念1の達成を検証指標アで、基本理念2の達成を検証指標イ、ウで確認しました。検証指標アは、令和元年度(2019年度)から質問を変更したため、基準値から大きく増加しました。これは、質問に生涯学習という言葉を使わなくなったことにより、市民の学習実態をより把握できるようになったものと考えています。

変更前：あなたは、この1年くらいの間、生涯学習をしたことがありますか。

変更後：あなたは、この1年くらいの間、どのような場所や形態で学習をしたことがありますか。(複数回答)

また、基本理念を達成するための「具体的な取組」全177件の検証指標を達成度ごとに分類すると次のとおりになります。



令和3年度（2021年度）実績で目標達成をしていない（B、C評価）割合は69.6%と高い状況であり、目標達成できなかった理由を確認すると、新型コロナウイルス感染症の流行を挙げているものが48%ありました。

## ②自己学習に関するアンケート調査

前計画の成果を測る一環として、市民の学習状況を調査するため、令和5年（2023年）6月に自己学習に関するアンケート調査を実施しました。アンケートで判明した主な事項は以下のとおりです。

- ・回答者の約40%がSNSなどのインターネットを利用して情報を収集しています。
- ・市が主催する講座・イベントに参加した回答者の割合が約25%と低くなっています。
- ・市が主催する講座・イベントに参加していない回答者の約60%が「イベントがあることを知らなかった」「興味のあるイベントがなかった」を理由に挙げています。
- ・回答者の約80%がリカレント教育・リスキリングに関心を持っています。

## （3）課題

①及び②の結果を踏まえた課題は次のとおりです。

- ・生涯学習を行った市民は増加していますが、市が取り組んだ活動は目標達成できていないものが70%近くあります。このことから、市の取組だけでなく、民間主催や自主的な学習が多いものと推測されます。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、目標達成できなかった取組が多数あります。これらの取組はこれから再開していきませんが、その際にはコロナ禍で培ったリモートでの開催など、DXの推進に取り組む必要があります。
- ・学習を通じて仲間づくりや地域の貢献活動につながった市民の割合が低いことから、生涯学習の成果を生かせる社会づくりを進めていく必要があります。

- ・市の講座・イベントへの参加者増加には、広報と魅力ある講座・イベントの企画が必要です。
- ・リカレント教育やリスキリングの情報発信が必要です。

#### (4) 今後の方向性

- ・市民の多くが生涯学習に取り組んでいることから、今後は、市民に対して豊富な学びの提供ができるよう取り組みます。その際は、民間主催の学習情報を確認し、民間との連携を図りながら、多種多様な学びの機会の提供に努め、市民が多くの学びを選択できるようにします。
- ・コロナ禍で培ったリモートでの開催など、DXの推進に取り組めます。
- ・「つながりづくり」「地域づくり」など学びの成果を生かせる社会づくりに注力します。その際には、地域団体やNPO法人など多様な団体と連携し、多くの市民に対応できるよう取り組みます。
- ・市の講座やイベントを多くの市民に知ってもらうために、積極的に情報を発信します。また、市民から寄せられる多様な講座の希望に応えた講座の企画に取り組めます。
- ・リカレント教育とリスキリングは、大学や民間事業者での取組が多いことから、市民と大学、民間事業者とを結びつけていく取組を目指します。

# 第3章

## 本市が目指す生涯学習の姿と 基本理念

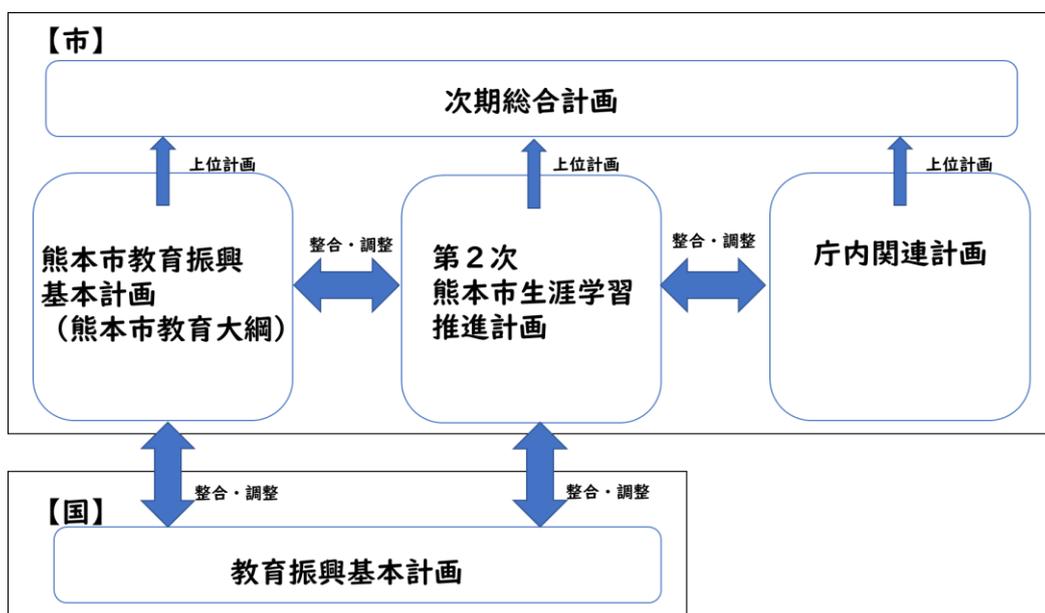
### 1 基本的事項

#### (1) 計画の位置づけ

この計画は、本市の生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示したものであり、次期総合計画で目指す社会を生涯学習の面から実現させるものです。

本計画の策定に当たっては、前計画を継承しつつ、本市の課題が解消できるものとし、次期熊本市教育振興基本計画（熊本市教育大綱）を始めとする関連計画との整合を図るとともに、国の「教育振興基本計画」（令和5年6月）を参考とします。

#### ○生涯学習と関連計画の関係図



#### (2) 計画の期間

計画の期間は、次期総合計画との整合を踏まえ、令和6年度（2024年度）から令和13年度（2031年度）までの8年間とします。

また、次期総合計画での見直しに合わせて本計画も見直します。

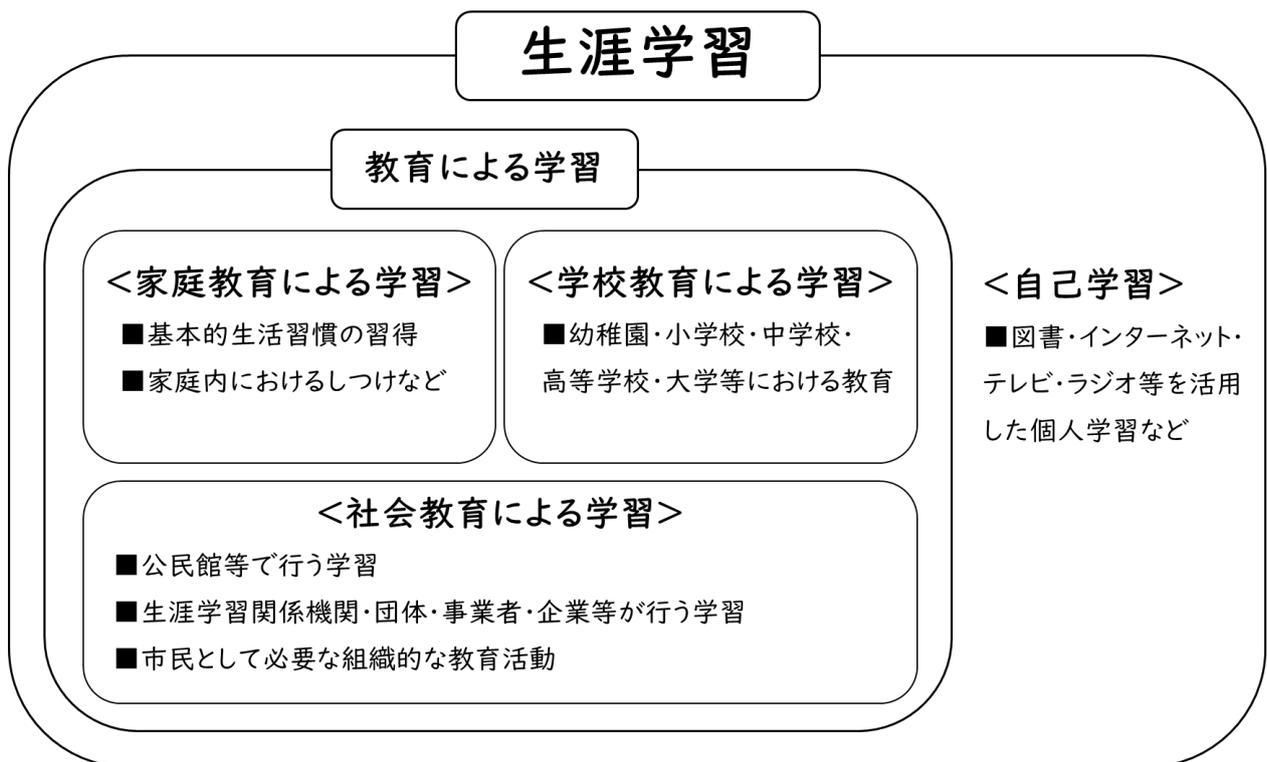
### (3) 生涯学習の定義

生涯学習とは、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、家庭教育、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。

つまり、次の①～③を総括した一連の学習活動のことを言います。

- ① 家庭教育を通じて、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につけ、豊かな心を育むこと。
- ② 学校教育を通じて、基礎的な学力を身につけ、わかる喜び、学ぶ楽しさや成功体験を通じ、自発的意思により生涯にわたって学習するための基礎を培うこと。
- ③ 各人が自発的に、自らの意思で必要に応じて自己に適した手段・方法を自由に選択して、生涯にわたって社会教育による学習や自己学習など様々な学習活動を行うこと。

### ○生涯学習のイメージ図



## 2 本市が目指す生涯学習の姿

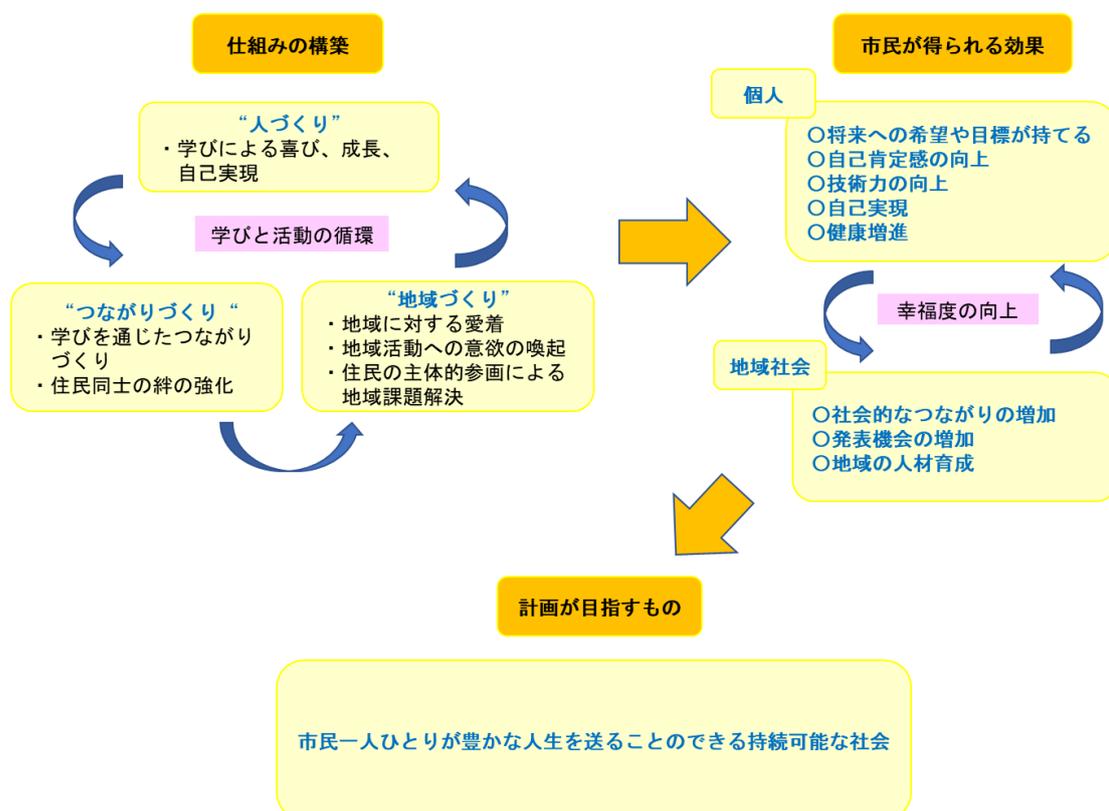
本市は、生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指します。

これは、市民に必要な学びを提供し、市民は学び、その学びの成果を生かす環境をつくること、いわゆる「学びと活動の循環」により、市民一人ひとりの幸せが地域へ広がり、地域の豊かさにつながることで、市民と地域がお互いに豊かになると考えます。

さらに、これからの地域社会においては、生涯学習の成果が、例えば独居高齢者や不登校生徒などがつながるきっかけになるなど、生涯学習が「人づくり」「地域づくり」につながるような情報発信を目指します。

最終的には、本市の生涯学習による幸福度（ウェルビーイング）の向上が『上質な生活都市』となるよう目指していきます。

### ○全体構想図



### 3 基本理念

本計画では、本市が目指す生涯学習の姿を実現するため、次のとおり基本理念を掲げます。

「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会の実現

今般、新型コロナウイルス感染症の流行や、Society5.0の実現に向けて社会構造が変化しています。その変化に対応し、市民一人ひとりが心豊かな人生を送るためには生涯にわたって学び続けることが重要です。

そして、今後は学んだ成果を適切に生かすことのできる社会の実現が求められています。

これまでも、生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指してきましたが、今後も重要性は変わらないものと考えており、社会構造の変化を踏まえてより効果的な「学びと活動の循環」の仕組みに改善していきます。

### 4 検証指標の設定

本計画の達成度を図るため、次のとおり検証指標を設定します。

なお、直近の実績値（令和3年度（2021年度））は新型コロナウイルス感染症の流行による低下が見られるため、令和元年度（2019年度）を基準値とします。

検証指標	基準値 (R1)	参考値 (R3)	検証値 (R13)
ア 生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合	検討中	検討中	検討中
イ 学習を通じて新たな仲間づくりができた市民の割合	24.1%	24.5%	50.0%
ウ 学習を通じて地域の活動やボランティア活動に参加した市民の割合	12.2%	7.6%	30.0%

※検証指標ア、イ、ウはそれぞれ、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を図る指標として、熊本市総合計画市民アンケートにより測定します。

## 5 基本施策

基本理念を実現するため、次の2つの基本施策を定め、生涯学習を推進します。

### 〈基本施策1〉 市民が学ぶ楽しさを実感できる学習機会の提供

市民一人ひとりの生涯学習を推進するためには、学習できる環境の整備と提供する学習内容の充実が必要です。

そこで、学習環境の整備として民間事業者や大学との連携強化、デジタル化の推進など、市民が学習しやすい環境をつくります。

また、学習内容を充実させるため、ライフステージ、現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習機会・内容の充実を図っていきます。

### 〈基本施策2〉 生涯学習とつながる社会参加の機会の充実

人生100年時代の中で、人生をとおして学び続けることが必要な時代になっています。自ら学んだ成果が適切に評価され、他者に発表する機会を得られることは、新たな気づきや刺激になるとともに、次の学びへの意欲の向上につながります。

また、学んだ成果が地域に還元されることで、地域社会全体の教育力の向上にも貢献するというように、地域での知の循環が形成されます。

このため、学んだ成果を適切に生かすことのできる社会づくりを進めていきます。

併せて、複雑化・多様化した地域課題解決に対応するために、地域住民と多様な活動主体がつながり、課題を共有し、解決策を検討していくためのネットワークを構築します。

## 6 体系図

**基本理念** 「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会の実現

### 基本施策Ⅰ 市民が学ぶ楽しさを実感できる学習機会の提供

#### 取組内容

##### 【学習環境の整備】

- ① 生涯学習関係機関などとの連携
- ② 生涯学習推進に関する情報の収集と提供
- ③ デジタル化の推進

##### 【学習内容の充実】

- ④ 文化芸術の取組の推進
- ⑤ スポーツ活動の推進
- ⑥ 多文化共生の推進
- ⑦ 図書館・博物館などにおける生涯学習の推進
- ⑧ 障がい者の生涯学習の推進
- ⑨ ライフステージに応じた学習内容の充実
- ⑩ 現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習内容の充実

### 基本施策Ⅱ 生涯学習とつながる社会参加の機会の充実

#### 取組内容

- ① 人材やボランティアの養成・活用
- ② 学習成果を生かす取組の推進
- ③ 地域と学校との連携・協働の推進
- ④ 災害に強い地域コミュニティづくりの推進

# 第4章

## 基本施策の展開

### 1 概要

基本施策の実現に向けて、本市の取組を取組内容ごとに示しています。なお、本計画に記載した取組は計画開始時点のものであり、年度単位での見直しを行います。なお、担当課欄のカッコ内は連携する団体を記載しています。

### 2 取組内容

#### (1) 基本施策1

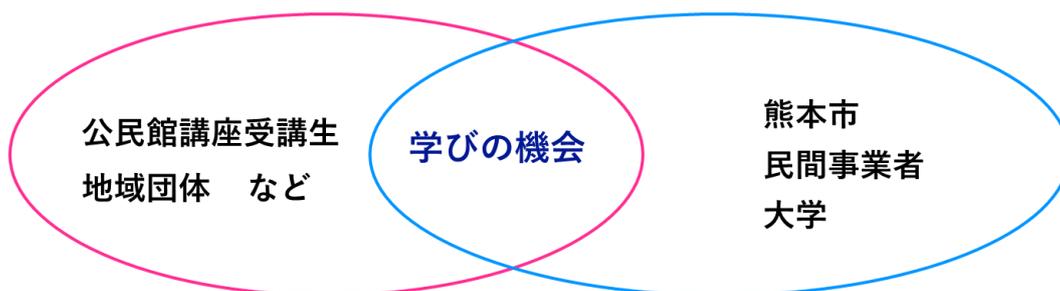
#### 「市民が学ぶ楽しさを実感できる学習機会の提供」

市民一人ひとりの生涯学習を推進するためには、学習できる「環境の整備」と、提供する「学習内容の充実」が必要です。「環境の整備」を①から③の取組内容に、「学習内容の充実」を④から⑩の取組内容にまとめています。

#### 【取組内容①】 生涯学習関係機関などとの連携

市も民間事業者も多くの学習を提供しています。連携して生涯学習の提供内容を考えることで、市民が多様な学習を体験できるように取り組みます。

#### ○イメージ図



#### 取組一覧

No.	取組		担当課
1	拡充	【重点】民間事業者との連絡会議による学習内容の開発	生涯学習課 (民間事業者)
2	継続	熊本市生涯学習庁内関係課連絡会議の開催	生涯学習課

3	拡充	<b>【重点】</b> 民間事業者や大学などを含めた講座情報の収集・提供	生涯学習課 (民間事業者、 大学)
4	拡充	<b>【重点】</b> 生きがいつくりのための学習機会の提供 ※民間事業者や大学との連携を強化し、学習情報などの共有を行う。	生涯学習課 (民間事業者、 大学)
5	拡充	<b>【重点】</b> 公民館講座生と地域団体をつなぐ取組の推進	生涯学習課 (町内自治会など)

**【取組内容②】 生涯学習推進に関する情報の収集と提供**

市民が学習を始めやすくするために、関係機関や関係団体から多くの情報を収集し、その情報を市民一人ひとりに届けられるように取り組めます。

○参考：熊本市生涯学習情報システムのバナー



## 熊本市生涯学習情報システム

令和4年度講座掲載数：718件

**取組一覧**

No.		取組	担当課
1	拡充	<b>【重点】</b> 生涯学習出前講座一覧の整備	生涯学習課
2	拡充	<b>【重点】</b> 生涯学習情報システムの掲載内容拡充	生涯学習課
3	継続	<b>【重点】</b> 各生涯学習施設における学習ニーズ把握などのためのアンケート実施	生涯学習課

### 【取組内容③】 デジタル化の推進

今後、ICTをはじめとするデジタル化があらゆる分野で進んでいきます。本市でも電子申請の受付開始など、様々なデジタル化を行っています。それに伴い、あらゆる市民にもデジタル化に対応してもらうことが必要になります。市のデジタル化と市民のデジタル化対応に取り組めます。

#### ○参考



小中学生用に配備されたタブレット

60, 811台

#### 取組一覧

No.	取組		担当課
1	拡充	【重点】公民館などでのタブレット端末やスマートフォンに関する講座の実施	生涯学習課
2		健康ポイント事業の実施	健康づくり推進課
3		健康づくり活動を推進するための健康まちづくりの推進	健康づくり推進課
4		学校のデジタル化を推進するための電子図書館の利用促進	熊本市立図書館
5		電子書籍貸出サービスの実施	熊本市立図書館
6		小中学校における学習者用端末の維持・整備	教育センター

【取組内容④】 文化芸術の取組の推進

潤いのある生活の実現のために、有形無形の文化財などの更なる活用や地域文化活動の活性化、また、文化芸術の鑑賞機会や団体支援を充実させることで、文化を生かしたまちづくりに取り組めます。



○熊本市観光ガイド「くまもとの文化」より

取組一覧

No.	取組	担当課
1	地域の潜在的な文化財のまちづくりへの活用	文化政策課
2	文化芸術の発信拠点としての市民会館の活用	文化政策課
3	文化芸術の発信拠点としての健軍文化ホールの活用	文化政策課
4	文化芸術の発信拠点としての現代美術館の活用	文化政策課
5	気軽に工芸品に触れる機会を提供するため、工芸会館の活用	文化政策課
6	本市の伝統的工芸品のPRや支援	文化政策課
7	本市のアーティストとスポットをマッチングさせる事業であるアーティストスポット熊本運営	文化政策課
8	歴史的文化遺産を学ぶ機会の充実	文化財課
9	記念館などを活用した魅力の発信	文化財課
10	熊本城の史跡的な価値の発信	熊本城調査研究センター

**【取組内容⑤】 スポーツ活動の推進**

市民誰もがスポーツに親しめる環境を整えながら、年齢や性別、障がいなどの有無を問わず、それぞれの体力や技術、興味、目的に応じて、気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現に努めます。

○参考

週1回以上スポーツをしている市民の割合 50.6% (令和4年度実績)

取組一覧

No.	取組	担当課
1	総合型地域スポーツクラブへの育成・支援	スポーツ振興課
2	市民総参加型のスポーツイベントの開催	スポーツ振興課
3	地元プロスポーツチームとの連携によるスポーツ教室の開催	スポーツ振興課
4	バドミントン国際大会「熊本マスタースジャパン」の開催	スポーツ振興課 (熊本県)
5	熊本城マラソンの開催	イベント推進課

【取組内容⑥】 多文化共生の推進

外国籍の住民が増加しており、外国人と交流する機会も確実に増加しています。それに伴い、異文化への理解や会話能力の向上などの必要性が増してきました。幅広い視野を持った、国際社会に対応できる人材を育成するとともに、日本人と外国人の相互理解を促進し、多文化共生のまちづくりに取り組みます。

○参考

在留外国人数 7, 868人（令和5年7月1日時点）

取組一覧

No.	取組	担当課
1	熊本市国際交流員によるインターナショナルサロンの実施	国際課
2	熊本市国際交流員を講師として学校や公民館などへ派遣	国際課
3	地域国際化推進ボランティア（在住外国人など）を講師として学校や公民館などへ派遣	国際課
4	フェアトレードに関する広報や啓発の実施	国際課
5	アジア・太平洋水サミットをはじめ国際会議などの開催	国際課
6	在住外国人などを対象に日本文化体験の実施	国際課
7	地域向けやさしいにほんご教室の実施	国際課
8	在住外国人等を対象に日本語支援事業の実施	国際課
9	公民館を活用したまちづくり活動における多文化共生の推進	生涯学習課

**【取組内容⑦】 図書館・博物館などにおける生涯学習の推進**

市民の最も身近な学習施設である図書館・博物館などでは、学習ニーズを把握し、それに応じたサービスを実施することで、それぞれの施設の特色を生かした学習内容の充実に取り組みます。

**○参考**

図書貸出冊数 281万冊（令和4年度実績）

博物館来場者数 93,239人（令和4年度実績）

**取組一覧**

No.	取組	担当課
1	図書館における圏域住民の相互利用	熊本市立図書館
2	図書館ネットワークの充実による利用の促進	熊本市立図書館
3	博物館及び塚原歴史民俗資料館でのこども科学・ものづくり教室などの実施	熊本博物館
4	博物館におけるお迎え事業及びお出かけ事業の実施	熊本博物館
5	博物館主催講座への圏域住民の相互参加	熊本博物館
6	博物館におけるスクールシャトルバス事業の実施	熊本博物館
7	博物館や現代美術館における魅力ある展覧会の開催	熊本博物館

**【取組内容⑧】 障がい者の生涯学習の推進**

安心して暮らし、人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現を目指すため、学びたいという意欲とニーズに対応し、障がい特性に合わせた様々な学習機会の提供に取り組めます。

○参考

障がい者サポーター制度

研修会開催数 38回、参加人数 2,191人（令和4年度実績）

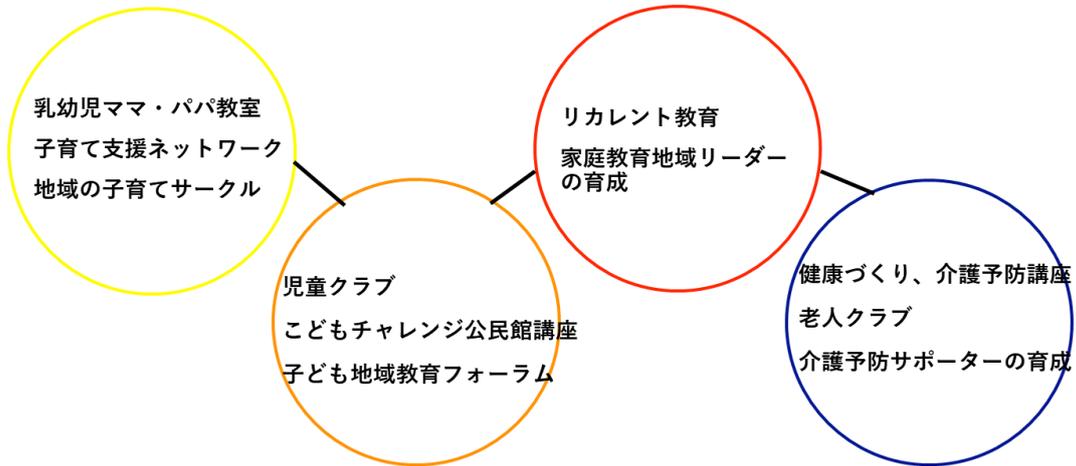
取組一覧

No.	取組	担当課
1	障がい者サポーター制度の普及・啓発	障がい福祉課
2	「アールブリュット」の普及	障がい福祉課
3	くまもと障がい者スポーツ大会の開催	障がい福祉課
4	精神障がい者スポーツ大会の開催（熊本市精神科病院会共催）	こころの健康センター （熊本市精神科病院会）
5	閉園後の動物園に招待する「ドリームナイトアットザズー」の実施	動植物園
6	図書などの郵送貸出や電子図書による文字拡大、読み上げ、マーカー機能を活用したサービスの提供	熊本市立図書館
7	熊本博物館での字幕付きプラネタリウムの放映	熊本博物館

【取組内容⑨】 ライフステージに応じた学習内容の充実

ライフステージによって求められる学習の種類が異なります。乳幼児期、学童期、思春期、成年期、高齢期といったライフステージごとに求められる学習内容を提供していきます。

○イメージ図



取組一覧

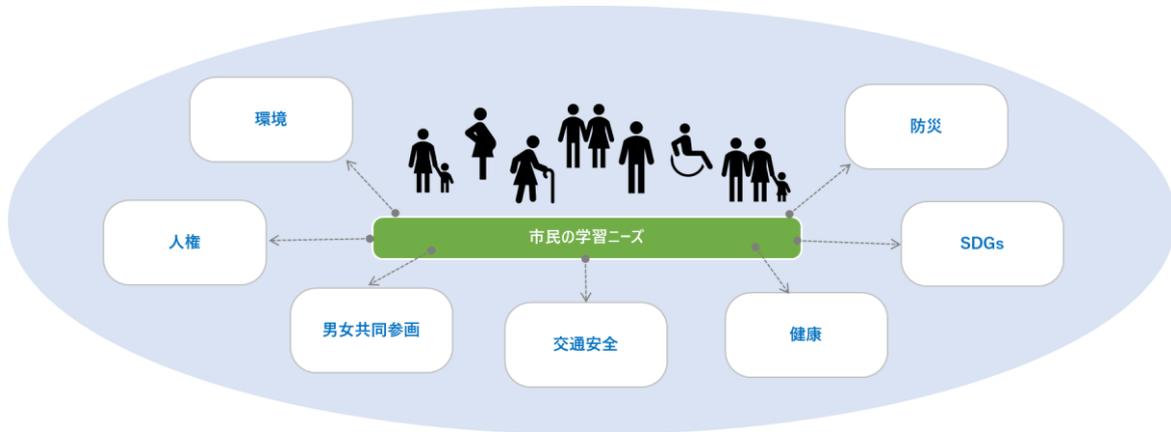
No.	取組	担当課
1	子育てに関する学習機会「乳幼児ママ・パパ教室」の実施	こども支援課
2	子育て支援ネットワークや地域の子育てサークル・子育て支援団体の活動支援・育成	こども支援課
3	児童の学習機会「児童クラブ」の実施	こども支援課
4	こどもチャレンジ公民館講座などの実施	生涯学習課
5	子育てに関する学習機会の実施（家庭教育学級）	生涯学習課
6	家庭教育に関する学習機会の充実	地域教育推進課
7	子ども地域教育フォーラムの開催	地域教育推進課
8	青少年センター職員などによる非行・被害防止に関する学習機会の提供	地域教育推進課
9	ジュニアヘルパーの育成	高齢福祉課
10	公民館と大学との連携によるリカレント教育の実施	生涯学習課

11		放送大学と連携したリカレント教育情報の発信	生涯学習課
12		まちづくりセンターで把握した地域課題を解決するための人材育成講座の開催	生涯学習課
13		「結婚・子育て応援サイト」での情報提供	こども政策課
14		社会人向けの市民講座・イベントの開催	誘致戦略課
15		家庭教育地域リーダーなど人材の育成と活躍の場の提供	地域教育推進課
16		認知症サポーターの養成	高齢福祉課
17		健康づくりや介護予防などに関する学習機会の充実	高齢福祉課
18		老人クラブなどへの活動支援	高齢福祉課
19		介護予防サポーターの養成及びフォローアップ	高齢福祉課
20		高齢者向けICTを活用した学習機会や内容の充実	高齢福祉課
21		地域の通いの場に対する立ち上げ、継続支援	高齢福祉課

【取組内容⑩】 現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する  
学習内容の充実

市民一人ひとりの課題や学びたいことはさまざまであることから、幅広い学習内容を提供し、それぞれの学びに対応できるよう取り組みます。

○イメージ図



取組一覧

No.	取組	担当課
1	SDGsの普及啓発を進めるための講演会や研修会の実施	政策企画課
2	災害訓練における広域的な避難体制の構築	危機管理課
3	地域版ハザードマップを活用した避難訓練の実施	危機管理課 防災対策課
4	「校区防災連絡会」「避難所運営委員会」による、地域での防災訓練の実施	防災対策課
5	各校区防災連絡会、自主防災組織、地域の消防士などとの連携と情報の共有を図るための住民参加型の防災に関する会議を各区に設置	防災対策課
6	インターネットラジオを活用した災害情報発信	防災対策課
7	交通安全教室の開催	生活安全課
8	消費者セミナーや出前講座の開催	消費者センター
9	消費生活相談業務とその体制の充実	消費者センター
10	様々な人権問題に関する啓発イベントの実施	人権政策課

11		様々な人権問題に関する情報提供の実施	人権政策課
12		人権学習に対する支援	人権政策課
13		性的マイノリティに関する研修や啓発の実施	男女共同参画課
14		男女共同参画に関する講演会や出前講座の実施	男女共同参画課
15		女性の活躍推進に向けたセミナーなどの実施	男女共同参画課
16		DV防止に関するセミナーなどの実施	男女共同参画課
17		男女共同参画誌「はあもにい」による情報提供	男女共同参画課
18		リカレント教育などのセミナーの実施	男女共同参画課
19		糖尿病・高血圧などの生活習慣病についての健康教育を実施	健康づくり推進課 高齡福祉課 こども支援課
20		放課後学習教室の実施	こども家庭福祉課
21		ホームページや SNS などで発信を活用した環境教育の充実	環境政策課
22		節水市民運動の推進	水保全課
23		いきもの学習センターにおける環境学習の実施	動植物園

## (2) 基本施策2

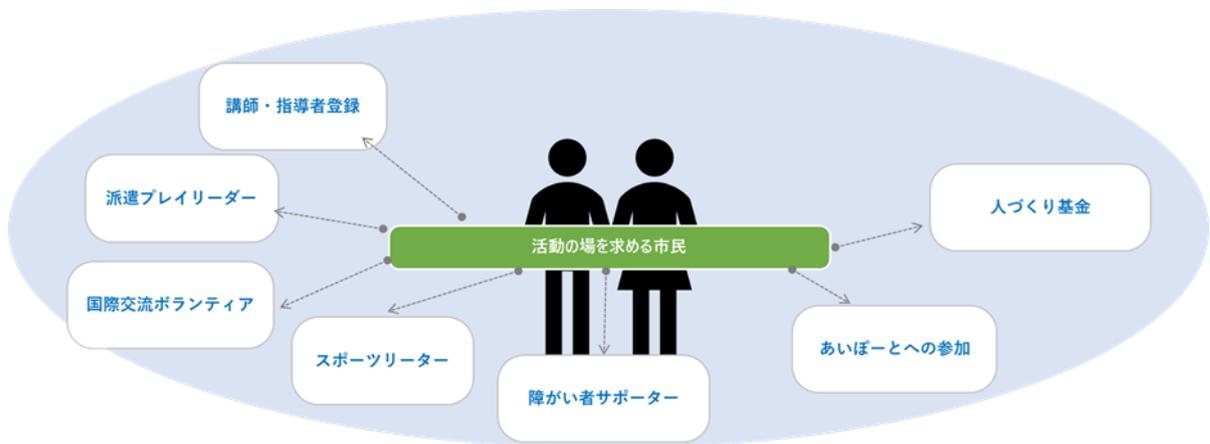
### 「生涯学習とつながる社会参加の機会の充実」

#### 【取組内容①】 人材やボランティアの養成・活用

あらゆる世代がこれからも住み慣れたまちで安心して暮らし続けるためには、そこで暮らす人たちが主体となり、お互いに支え、助け合いながら、様々な課題を解決していくことで、地域において弱まりつつあるコミュニティを維持・再生していくことが必要となっています。

そこで、地域を担う人材やボランティアを養成し、活躍の場を拡充します。

#### ○イメージ図



#### 取組一覧

No.	取組	担当課
1	国際交流ボランティア（語学ボランティア、ホストファミリーのボランティアなど）の育成及び活動の促進	国際課
2	市民活動支援センター・あいぽーとの活用促進	地域活動推進課
3	熊本市青少年健全育成連絡協議会との「青少年健全育成大会」の開催	生涯学習課
4	熊本市生涯学習情報システムの「講師・指導者情報」の拡充	生涯学習課
5	派遣プレイリーダーの活用	生涯学習課
6	女性人材リストの整備・活用	男女共同参画課

7	人づくり基金による将来の熊本市におけるリーダーの育成	文化政策課
8	食生活改善推進に関する取組	健康づくり推進課
9	8020運動の推進	健康づくり推進課
10	障がい者サポーターの養成	障がい福祉課
11	手話講座の開催と手話奉仕員などの活躍の場の提供	生涯学習課 障がい福祉課
12	スポーツリーダーの養成・活用	スポーツ振興課
13	ニュースポーツの普及・啓発	スポーツ振興課

#### 【取組内容②】 学習成果を生かす取組の推進

検定制度や発表の場など、学習の成果を発揮する機会を提供することで、市民が積極的に生涯学習に取り組めるよう進めます。

#### ○参考

あいぽーと利用件数 75, 132件（令和4年度実績）

#### 取組一覧

No.	取組	担当課
1	地域活動の活性化、地域力の維持・向上につながるセミナー・体験会などの実施	地域活動推進課
2	市民活動支援センター・あいぽーとによる活動の場の提供	地域活動推進課
3	生涯学習の啓発活動	生涯学習課
4	シルバー人材センターの活用	高齢福祉課
5	基本的な生活習慣を身につける教育・保育の充実	保育幼稚園課
6	「くまもと水守」制度の活用	水保全課
7	くまもと「水」検定の実施	水保全課
8	食品ロス削減の啓発	廃棄物計画課

**【取組内容③】 地域と学校との連携・協働の推進**

こどもたちがこれからの時代を生き抜く力を身につけ、地域への愛着や誇りを感じることができるよう、地域と学校が連携・協働し、こどもたちの居場所を作るなど、地域全体で未来を担うこどもたちを支援する取組を進めます。

**○参考**

小中学校での学校支援ボランティアの延べ活動人数  
20,108人（令和4年度実績）

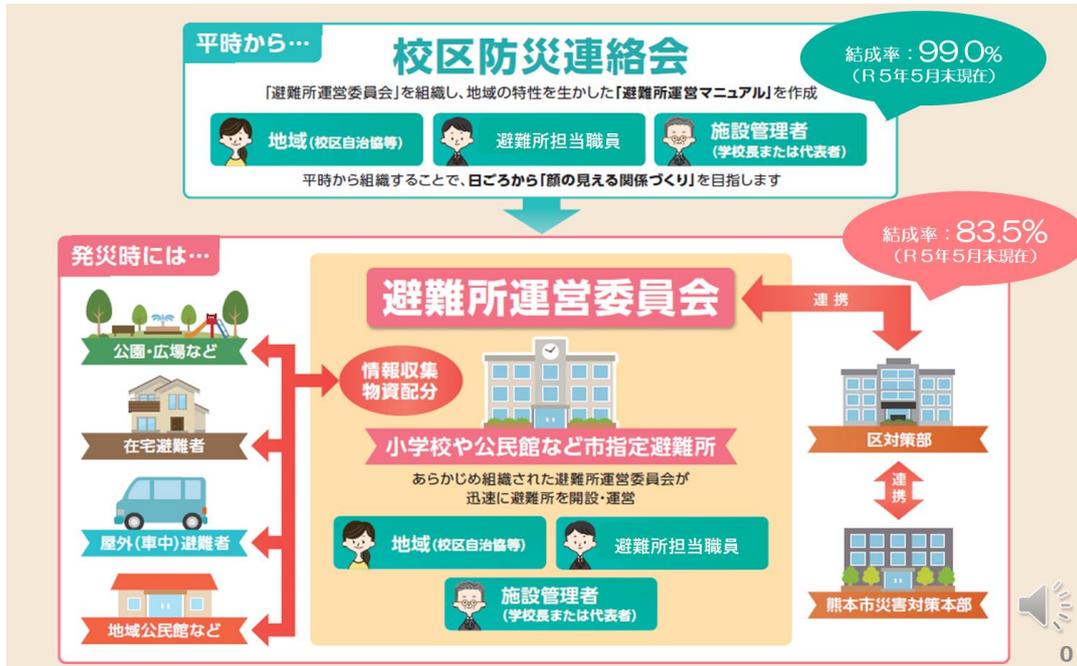
**取組一覧**

No.	取組	担当課
1	中学生地域交流推進事業の実施	生涯学習課
2	学習成果を活かす取組の推進	生涯学習課
3	地域の公民館や学校などでの文化芸術に接する機会の提供	生涯学習課
4	幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との連携事業実施（異年齢児交流事業など）	保育幼稚園課
5	読み聞かせボランティアの育成	熊本市立図書館
6	博物館及び塚原歴史民俗資料館でのこども科学・ものづくり教室などの実施	熊本博物館
7	学校支援ボランティア活動の実施	指導課
8	学びたいむの推進	指導課

【取組内容④】 災害に強い地域コミュニティづくりの推進

災害に備えるためには事前に知識を身につけ、その知識を生かしていくことが重要です。知識を生かす場として、災害に強い地域コミュニティづくりに取り組めます。

○参考：防災体制



取組一覧

No.	取組	担当課
1	災害の記録・記憶及び教訓の伝承	広報課
2	震災での体験や教訓を生かした防災教育の推進	危機管理課 防災計画課 防災対策課
3	防災士の養成	防災対策課
4	地域と連携した防災訓練の実施、自主防災クラブ・避難所運営組織の活動への参加促進	防災対策課
5	幼稚園、保育所、認定こども園などにおけるこどもたちの防災教育の実施	保育幼稚園課

# 第5章

## 計画の推進に当たって

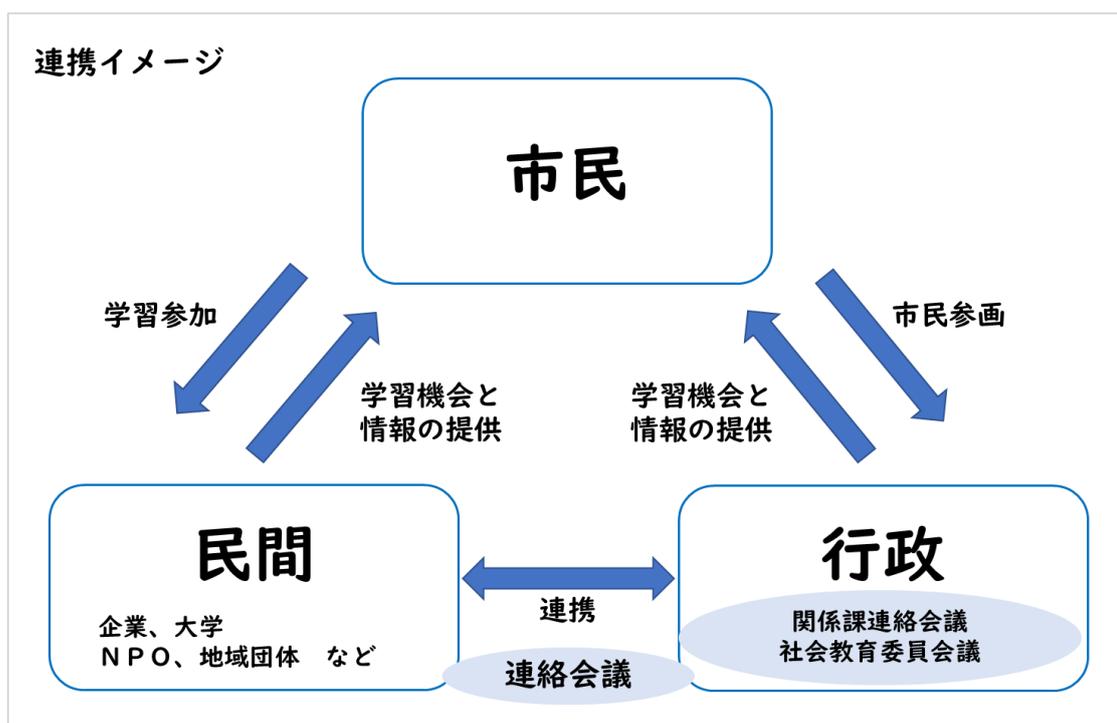
### 1 計画の進行管理に係る基本的な考え方

この計画を実効性のあるものとして推進していくため、行政をはじめ、市民や民間事業者などの各主体との協働により進めるとともに、①計画の策定=Plan、②計画の実施=Do、③計画の評価=Check、④計画の改善=ActionのPDCAサイクルに基づいて、進捗状況を管理します。

また、第4章に記載した各取組については、社会の変化に合わせて適宜見直し、さらに、完成した計画として本市が提供するだけにとどまらず、進行形で継続性があるものとしてより高めていくために、随時、市民の意見を反映した取組を追加し、市民の満足度を高めます。

### 2 計画の推進体制

計画推進に当たっては、庁内関係部署から構成する「熊本市生涯学習庁内関係課連絡会議」において、進捗状況の確認や効果の把握などを行うとともに、有識者や公募市民などから構成する「熊本市社会教育委員会」において、報告し、意見を求めながら、本計画の進行管理を行います。



## 取組内容の具体例に対する質問一覧

(第2回熊本市生涯学習推進計画策定委員会の資料「【別紙5】取組内容の具体例(案)」参照)

委員	質問及び意見	担当課
加藤委員	1P 取組内容②-2 詳細の文面に「利用者に対するアンケート調査」とありますが、「市民に対する・・・」では、如何でしょうか。 なぜなら、「利用者に対する・・・」となる、現在利用している人へのアンケートと勘違いするようになります。あくまでも現在利用している人も含めて、まだ利用していない人のニーズの把握が必要かと思えます。	生涯学習課
田川委員	2P 取組内容③-5 今回初めて博物館のYouTubeを視聴しました。視聴回数の少なさにびっくりです。制作しただけでは、伝わらない。いかに視て、知ってもらおうかお尋ねします。	熊本博物館
原委員	2P 取組内容④ 熊本市の体育施設施設を管理運営している「熊本文化・スポーツ財団」との連携を追記していただきたい。	スポーツ振興課
田川委員	2P 取組内容④-1 運動施設の確保や使用料の減免等の支援だけでなく、「育成」に対する指導者・補助者に対する支援は無いのでしょうか。	スポーツ振興課
田川委員	3P 取組内容⑥-1 リカレント教育に対し、大学と行政との連携を重視してあるが、企業に対し連携はしないのでしょうか。 現役の方のリカレント教育には企業の協力もいるのでは。	生涯学習課
加藤委員	3P 取組内容⑥-11 簡単な説明の詳細になっていたのもう少し具体的に示したらと思えます。 例えば、文面に、「・・・認知症サポーター養成講座を開催する。」とありますが、「・・・認知症サポーター養成講座を学校や地域各団体及び企業等と連携して開催する。」とか。	高齢福祉課
原委員	6P 取組内容⑨-11 「蔚山市との文化交流事業」を「諸外国の都市との文化交流事業」に変更 諸外国の都市との文化交流事業は、相互理解を育むうえで重要と考えます。 蔚山市だけを特筆する理由があるのでしょうか。	文化政策課
加藤委員	6P 取組内容⑨-11 友好都市との文化交流事業とありますが、本誌の友好都市は、蔚山市だけでしょうか。あるとすれば、他の都市とは、文化交流事業はやっていないのでしょうか。	文化政策課
貴田委員	6P 取組内容⑨-5 会館主催事業を街中で展開することについてはどのように考えておられますか。	文化政策課

原委員	<p>○追加していただきたい項目</p> <p>6P 取組内容⑨ 文化芸術の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くまもと市文化協会の設立 地域文化の振興及び育成、継承を図り、各区文化協会との連携を深め本市の文化芸術の創造と発展に資することを目的に設置 →地域文化の牽引役として、人材育成、文化の継承等に大きな役割を果たすと期待しています。</li> <li>・くまもと大邦楽祭の開催 「くまもと全国邦楽コンクール」と「くまもと子ども邦楽祭」の2部構成で、若手演奏家の発掘と邦楽への関心と親しむ機会として毎年開催しています。</li> </ul>	文化政策課
原委員	<p>○追加していただきたい項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な日本文化の体験、継承 茶道、華道、日本舞踊、邦楽など子どもを対象にした教室の開催は明記していただきたい。</li> </ul>	生涯学習課
原委員	<p>○追加していただきたい項目</p> <p>7P 取組内容⑩障がい者の生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペシャルオリンピックス地区大会の開催 知的障がいのある人たちに日常的なスポーツ活動プログラムとその発表の場である競技会を提供し、彼らの自立と社会参加を目的に、毎年地区大会を開催している。熊本市は名義後援の使用を承諾している。</li> <li>・楽球（レクレーションボッチャ）甲子園の開催 夏季パラリンピックの正式種目で、障がいのある人が参加する「チャレンジドの部」と障がいのある人とない人が一緒に参加する「ユニファイドの部」を毎年開催し、子どもから高齢者まで誰でも気軽に楽しめるスポーツ大会。 熊本市は名義後援の使用を承諾している。</li> </ul>	障がい福祉課
田川委員	<p>今後の取組の中に外国籍の方々に対する生涯学習がなかったように思われます。これからの熊本市はインクルーシブ教育を充実させる事も大切ではないでしょうか。対策や取組はあるのでしょうか。</p>	国際課